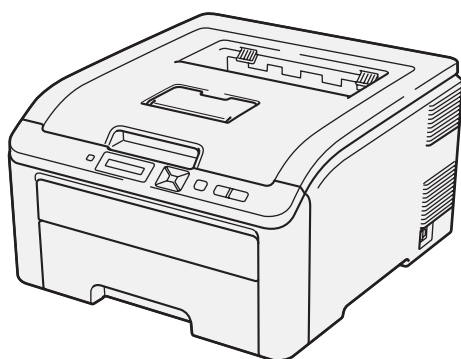
本マニュアルをよくお読みになって、製品をご利用ください。

A4カラープリンタ
HL-3040CN

画面で見るマニュアル(ユーザーズガイド～ネットワーク設定編～)

困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、故障かな？と思ったときなどは、以下の手順で原因をお調べください。

1 第６章「困ったときは」で調べる P.6-1

2 サポート ブラザー 検索 **ブラザーのサポートサイト**にアクセスして、最新の情報を調べる
http://solutions.brother.co.jp/

オンラインユーザー登録 ▶ https://regist.brother.jp/

Version 0
JPN

目次

本書のレイアウトについて

このページは説明のために作成したもので、実際のページとは異なります。

本マニュアルで使われている記号やマーク・表記について

本文中では、マークおよび商標について、以下のように表記しています。

マークについて

メモ	本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。

商標について

Brother のロゴはブラザー工業株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server、Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Apple、Macintosh、Mac OS、Safari は、Apple Inc. の商標です。
UNIX は、The Open Group の米国ならびにその他の国における登録商標です。
ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の商標です。
Norton AnitVirus は Symantec Corporation の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。
本マニュアルに記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

編集ならびに出版における通告

本マニュアルならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。
ブラザー工業株式会社は、本マニュアルに掲載された仕様ならびに資料を予告なしに変更する権利を有します。また提示されている資料に依拠したため生じた損害（間接的損害を含む）に対しては、出版物に含まれる誤植その他の誤りを含め、一切の責任を負いません。

表記について

- 本マニュアルでは、Windows® XP Professional、Windows® XP Home Edition、Windows® XP Professional x64 Edition を総称して、Windows® XP と表記します。
- 本マニュアルでは、Windows Server® 2003、Windows Server® 2003 x64 Edition を総称して、Windows Server® 2003 と表記します。
- 本マニュアルでは、Windows Vista® の全てのエディションを総称して、Windows Vista® と表記します。

第 1 章
はじめに

ネットワークで使う前に

ネットワークの概要

概要

本製品は、ネットワーク対応プリントサーバを内蔵しており、10/100BASE-TX ネットワーク上で共有することができます。プリントサーバは、TCP/IP プロトコルをサポートする Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® と、TCP/IP をサポートする Macintosh（Mac OS X 10.3.9 以降）のための印刷サービスを提供します。次の表では、各オペレーティングシステム（OS）でサポートするネットワークの機能と接続について示しています。

オペレーティングシステム（OS）	Windows® 2000 Windows® XP Windows Vista® Windows Server® 2003 Windows Server® 2008	Mac OS X 10.3.9 以降
10/100BASE-TX ネットワーク（TCP/IP）	○	○
印刷	○	○
BRAdmin Light	○	○
BRAdmin Professional 3 ※1	○	
BRPrint Auditor ソフトウェア※1、※2	○	
ウェブブラウザ	○	○
インターネット印刷	○	
ステータスモニタ※3	○	○
オートマチックドライバインストーラ	○	

※1　BRAdmin Professional 3、BRPrint Auditor ソフトウェアは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）よりダウンロードしてください。

※2　BRPrint Auditor ソフトウェアを使用すると、USB インターフェースを経由してクライアントコンピュータに接続しているプリンタの情報を BRAdmin Professional 3 で取得することができます。

※3　詳しい情報は、「ユーザーズガイド～基本編～」を参照してください。

ネットワークを経由して本製品を使用するには、プリントサーバおよびコンピュータの設定が必要です。

特長と機能

ネットワーク印刷

本製品は、TCP/IP プロトコルをサポートしている Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®、または TCP/IP をサポートしている Macintosh（Mac OS X 10.3.9 以降）の印刷サービスを提供しています。

管理ユーティリティ

BRAdmin Light

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定ができます。
BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008、Mac OS X 10.3.9 以降のコンピュータで利用できます。
Windows® をご使用の場合は、本製品に付属の「かんたん設置ガイド」を参照し、BRAdmin Light をインストールしてください。
Macintosh をご使用の場合は、プリンタドライバをインストールすると、自動的に BRAdmin Light もインストールされます。すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、再度インストールする必要はありません。

BRAdmin Professional 3（Windows® のみ）

BRAdmin Professional 3 は、ネットワークに接続されているブラザー製品を管理するためのユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品を検索し、ウィンドウからデバイスの状態を閲覧できます。各デバイスは、状態によって色分けされます。
ネットワーク上のWindows®システムが稼動するコンピュータからプリンタのネットワークファームウェアをアップデートしたり、ネットワーク設定を変更したりすることができます。また、ネットワーク上のブラザー製品の使用状況を記録し、HTML、CSV、TXT、SQL 形式でログデータをエクスポートすることができます。
クライアントコンピュータに接続したプリンタを管理する場合は、クライアントコンピュータに BRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。BRAdmin Professional 3 から USB インターフェースを経由してクライアントコンピュータに接続しているプリンタを管理することができます。
詳しい情報とダウンロードについては、次の URL を参照してください。
サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）

ウェブブラウザ

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。
詳細は、「ウェブブラウザで管理する」P.2-23 を参照してください。

BRPrint Auditor ソフトウェア（Windows® のみ）

BRPrint Auditor ソフトウェアは、ローカルに接続された機器を BRAdmin Professional 3 で管理できるようにします。USB インターフェースを経由してクライアントコンピュータに接続された機器の情報を収集します。収集した情報はネットワーク上の BRAdmin Professional 3 が稼動している他のコンピュータで表示することができます。これによって管理者がページカウントやトナー、ドラムの状態、ファームウェアのバージョンなどの項目を確認することができます。
ブラザーネットワーク管理アプリケーションへの通知に加え、使用状況やステータス情報を CSV または XML ファイル形式で、あらかじめ指定した E メールアドレスに直接 E メールを送信することもできます。（SMTP メールサポートが必要です。）
また、E メールによる警告やエラー状態の通知にも対応しています。

メモ

- 情報を取得したいプリンタと接続されているクライアントコンピュータに、BRPrint Auditor ソフトウェアをインストールしてください。
- BRAdmin Professional 3 がインストールされているコンピュータにはインストールしないでください。

ネットワーク導入作業の流れ

「かんたん設置ガイド」の手順に従ってドライバのインストールを進めると、自動的にネットワークの設定が完了します。
以降では、手動でインストールする場合の手順を示します。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

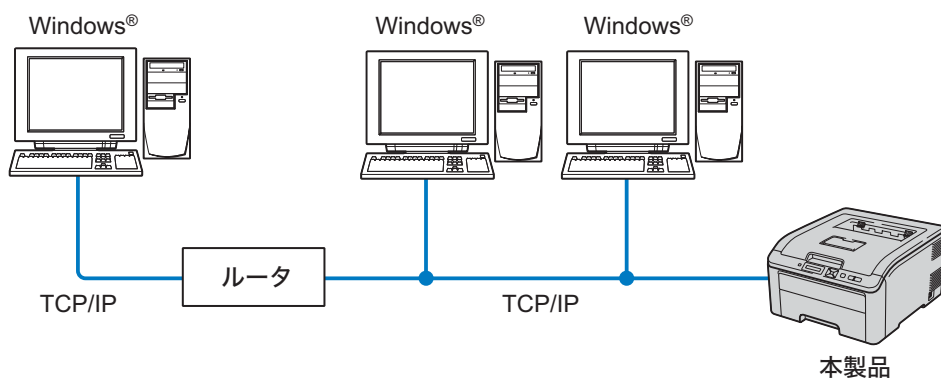
ネットワークの接続方法を決める

本製品を各コンピュータからネットワーク上で共有する場合、各コンピュータから直接プリンタと通信する「ピアツーピア接続」と、共有コンピュータを経由して通信する「ネットワーク共有」があります。

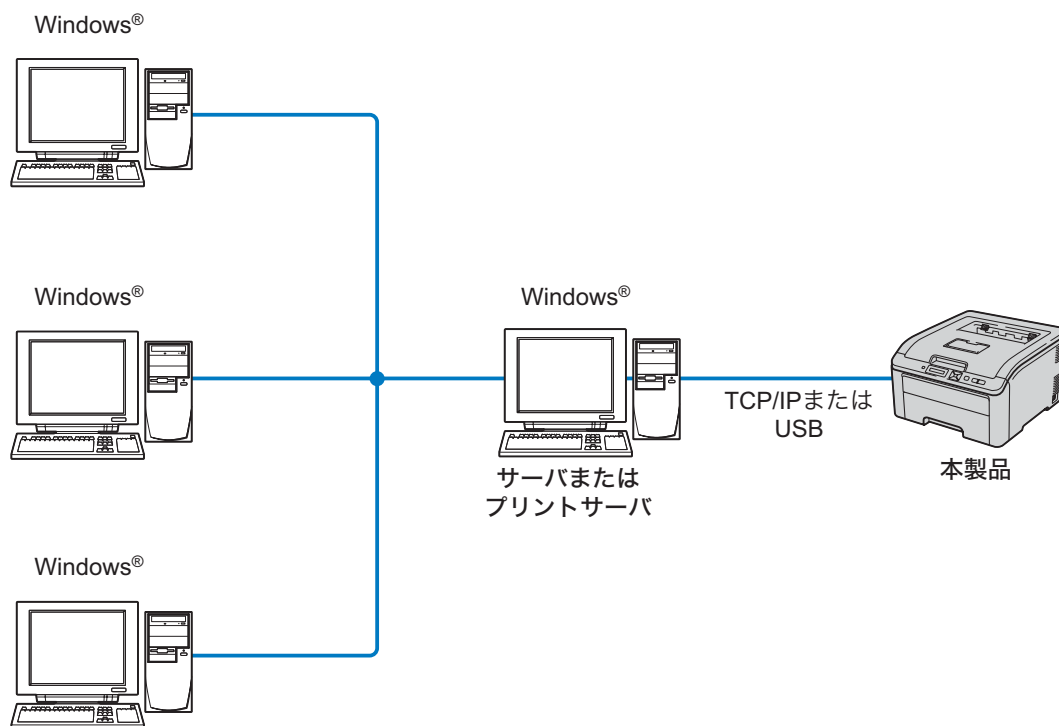
メモ

本マニュアルではピアツーピア接続の設定方法について記載しています。
ネットワーク共有の設定方法については、オペレーティングシステム（OS）の共有プリンタに関する説明やヘルプを参照してください。

ピアツーピア接続

ピアツーピア接続では、各コンピュータが本製品（ネットワークプリンタ）と直接データを送受信します。ファイルの送受信を操作するサーバやプリントサーバなどは必要ありません。
各コンピュータにプリンタポートの設定が必要です。

- コンピュータ 2、3 台程度の小規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷よりも簡単に設定できるピアツーピア印刷をおすすめします。ネットワーク共有印刷については、P.1-7 を参照してください。
- どのコンピュータも、TCP/IP プロトコルを使用している必要があります。
- ネットワークプリンタに適した IP アドレスを設定する必要があります。
- ルータを使用している場合は、コンピュータと本製品にゲートウェイアドレスを設定する必要があります。

ネットワーク共有

ネットワーク共有では、各コンピュータが本製品（ネットワークプリンタ）とデータを送受信するために、サーバまたはプリントサーバを経由する必要があります。
ネットワークプリンタに直接接続されているコンピュータにのみプリンタポートを設定し、そのコンピュータを経由して他のコンピュータもネットワークプリンタを共有します。ただし、ネットワークプリンタに接続されているコンピュータの電源が入っていないと、他のコンピュータはネットワークプリンタを使用できません。

- 大規模なネットワーク環境では、ネットワーク共有印刷環境をおすすめします。
- サーバまたはプリントサーバは、TCP/IP 印刷プロトコルを使用してください。
- サーバまたはプリントサーバには、本製品に IP アドレスを設定する必要があります。
- ネットワークプリンタとサーバを、USB インターフェースを経由して接続することもできます。

メモ

ネットワーク共有の方法については Windows® の共有プリンタに関する説明やヘルプを参照してください。

IP アドレスを決める

TCP/IP を利用して印刷するには、本製品に IP アドレスを割り当てる必要があります

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定する必要があります。

メモ

ゲートウェイの設定

ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つ IP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータの IP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書をご覧ください。

IP アドレスは以下の方法で割り当てます。

● IP アドレス配布サーバを利用している場合

本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動すると自動的に IP アドレスが割り当てられるとともに、RFC1001 および 1002 対応ダイナミックネームサービスによって、名称が登録されます。

● IP アドレス配布サーバを利用していない場合

DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境の IP アドレスの設定規則に適さない場合は、本製品の操作パネルを使用するか BRAdmin Light を使用して、本製品の IP アドレスを設定してください。

メモ

お買い上げ時の IP アドレス

IP アドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下の通りです。

・IP アドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA 機能による自動割当）

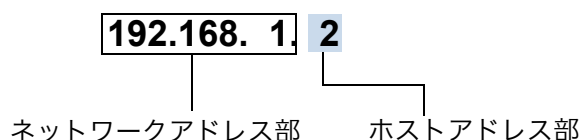
現在の IP アドレスを調べるときは、「ネットワーク設定一覧」を印刷します。詳しくは、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

IP アドレスとは

IP アドレスは、接続しているコンピュータの住所にあたるものです。TCP/IP ネットワークに接続するコンピュータなどの機器 (ノード) には、必ず IP アドレスを割り当てる必要があります。
IP アドレスは､0 ～255 までの数字を｢. (ピリオド)｣で区切って｢192.168.1.2｣のように表現します。
ローカルネットワークでは、IP アドレスはサブネットマスクによって「ネットワークアドレス部」と「ホストアドレス部」に分割されています。サブネットマスクを設定することにより、ホストアドレス部だけでそのネットワーク全体を管理できます。IP アドレスとサブネットマスクは常にセットで管理してください。

192.168.　1.2　　IP アドレス
255.255.255.0　　サブネットマスク

と設定されている場合、

という意味を持っています。このうち利用可能なホストアドレス部の値は、予約された "0" と "255" を除いた 1 ～ 254 の範囲で、「192.168.1.2」は、

192.168.1.1~254

の中のひとつのアドレスであることがわかります。このネットワークに本製品を追加する場合は、ホストアドレス部に重複しないよう変更した値を割り当ててください。

メモ

予約されているアドレス
上記の例では、「192.168.1.0」がネットワークアドレス、「192.168.1.255」がブロードキャストアドレスとなり、割り当てることはできません。

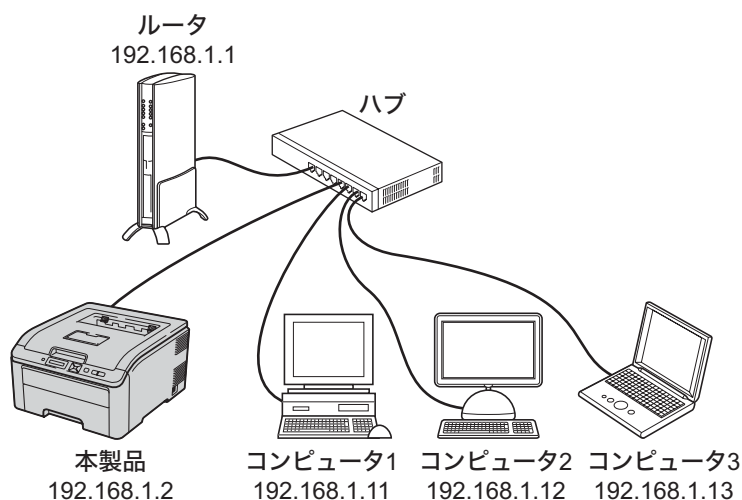
IP アドレスの決め方

本製品を同じネットワーク上に接続するためには、現在使用しているルータなどの初期値に合わせると簡単に設定、管理することができます。IP アドレスを手動で設定する場合は、以下のように設定します。
ルータの LAN 側 IP アドレスが「192.168.1.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」である場合、接続する本製品やコンピュータのネットワークアドレス部は同じ値を設定し、ホストアドレス部にはそれぞれ異なる値を割り当てます。ここでは「2 ～ 254」の範囲で設定します。以下の例を参考に、接続する機器の IP アドレスを設定してください。

例）

機器名（ノード）	IP アドレス	サブネットマスク
ルータ	192.168.1. 1	255.255.255.0
本製品	192.168.1. 2	255.255.255.0
コンピュータ 1	192.168.1.11	255.255.255.0
コンピュータ 2	192.168.1.12	255.255.255.0
コンピュータ 3	192.168.1.13	255.255.255.0

ルータ
192.168.1.1
ハブ
本製品
192.168.1.2
コンピュータ1
192.168.1.11
コンピュータ2
192.168.1.12
コンピュータ3
192.168.1.13

メモ

- **ネットワーク管理者がいるときは**
  ネットワークを管理している担当者に使用できる IP アドレスなどを問い合わせてください。数値を適当に設定すると、ネットワーク接続ができないなどのトラブルの原因となります。
- **ネットワーク内にルータがあるときは**
  ルータにも IP アドレスが割り当てられています。その IP アドレスを本製品またはコンピュータに設定しないでください。ルータの IP アドレスはルータの取扱説明書を確認するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

ネットワーク接続に必要な環境を整える

本製品をネットワーク上で使用するために、あらかじめ準備したり調べておくものについて説明します。

準備するもの

LAN ケーブル P.7-22

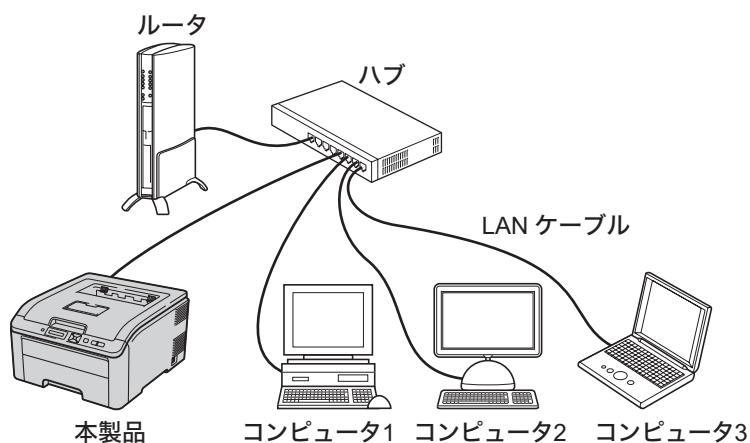
メモ

ケーブルの長さは、機器間の距離に多少の余裕を持って準備してください。
ただし、ケーブル長は 10BASE-T/100BASE-TX ともに最大 100m です。

ハブ P.7-22

メモ

ハブに接続できる機器の数はハブのポート数によって決まります。
お使いの環境から、何台の機器を接続するかを検討して準備してください。

ルータ P.7-23

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

第 2 章
ネットワークの設定

ネットワークプリンタの設定をする

概要

ネットワーク環境で本製品を使用する前に、TCP/IP の設定をする必要があります。
この章では、TCP/IP プロトコルを使用したネットワーク印刷をするために必要な基本手順について説明します。

本製品を簡単にネットワークに接続するには、付属の CD-ROM を使用し、「かんたん設置ガイド」の手順に従ってプリンタドライバのインストールを行ってください。

メモ

CD-ROM 内のインストーラを使用したくない場合、または CD-ROM 内のインストーラやブラザーソフトウェアを使用できない場合は、本製品の操作パネルを使用してネットワークの設定を変更できます。詳細は、「操作パネルを使用する」P.2-3 を参照してください。

ネットワークを設定するには、次の方法があります。

●操作パネルを使用する

本製品の操作パネルを使用して、ネットワーク設定のリセット、ネットワーク設定一覧の印刷、TCP/IP の設定ができます。詳細は、「操作パネルを使用する」P.2-3 を参照してください。

● BRAdmin Light を使用する

BRAdmin Light は、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定ができます。詳細は、「BRAdmin Light で設定する」P.2-17 を参照してください。

● BRAdmin Professional 3 を使用する（Windows® のみ）

BRAdmin Professional 3 は、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼動するコンピュータからネットワーク上のブラザー製品の検索、ステータス表示、ネットワーク設定の変更ができます。詳細は、「BRAdmin Professional 3 で管理する（Windows® のみ）」P.7-5 を参照してください。BRAdmin Professional 3 は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）よりダウンロードしてください。

●ウェブブラウザを使用する

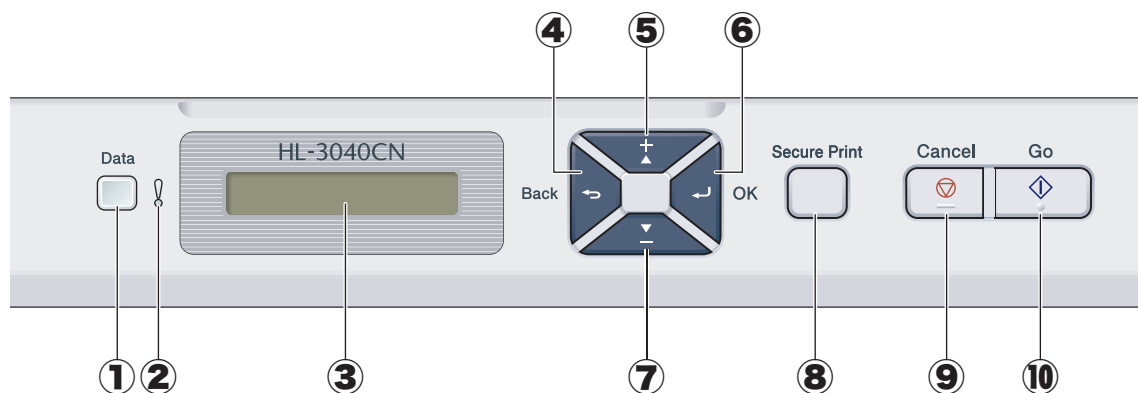
HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。
詳細は、「ウェブブラウザで管理する」P.2-23 を参照してください。

●その他の設定方法を使用する

他の方法を用いて、本製品を設定することができます。詳細は、「ユーティリティ以外から IP アドレスを設定する」P.7-2 を参照してください。

操作パネルを使用する

●ボタンとランプ、液晶ディスプレイ

7 つのボタンと 2 つのランプ、および液晶ディスプレイで構成されています。液晶ディスプレイは 1 行 16 文字で表示されます。

① Data ランプ（緑色）
② エラーランプ（オレンジ色）
③ 液晶ディスプレイ
④ Back ボタン
⑤ ＋ボタン
⑥ OK ボタン
⑦ −ボタン
⑧ Secure Print ボタン
⑨ Cancel ボタン
⑩ Go ボタン

操作パネルからできる項目

本製品の操作パネルを使って、以下の操作ができます。

操作内容			参照ページ
ネットワーク	TCP/IP	IP 取得方法	P.2-6
		IP アドレス	P.2-8
		サブネットマスク	P.2-9
		ゲートウェイ	P.2-10
		IP 設定リトライ	P.2-11
		APIPA	P.2-12
		IPv6	P.2-13
	イーサネット		P.2-14
ネットワーク設定一覧の印刷			P.2-15
ネットワーク設定リセット			P.2-16

メモ

お買い上げ時の設定や選択項目を確認する場合は、「お買い上げ時のネットワーク設定」P.7-15 を参照してください。

ネットワークの設定をする

操作パネルの液晶ディスプレイは、各設定項目を表示したり、▼、▲などで選択した設定値を表示します。1 行 16 文字で表示されます。
ここでは、操作パネルを使用してネットワークを設定する方法について説明します。

操作パネルを使用すれば、「ネットワーク」モードの設定メニューを通じてネットワーク設定をすることができます。
「インサツデキマス」と表示されているときに、▼、▲、▶、◀のいずれかを押し、▼または▲で「ネットワーク」モードを選択してください。

ﾈｯﾄﾜｰｸ

TCP/IP の設定

TCP/IP を使用して印刷するには、本製品に IP アドレスを設定します。
コンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。ルータの先に本製品が接続されている場合は、ルータのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

メモ

- 本製品のお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。
  IP アドレス：169.254.xxx.xxx（「APIPA」機能による自動割当）
- コンピュータを使用する場合は、ウェブブラウザや BRAdmin Light を使用して、「IP 設定の方法」または「IP 取得方法」を［Static（固定）］に設定します。
  本製品の操作パネルを使用する場合は、「IP 取得方法」P.2-6 を参照してください。

TCP/IP のメニューは 7 つの項目で構成されています。

- IP 取得方法 P.2-6
- IP アドレス P.2-8
- サブネットマスク P.2-9
- ゲートウェイアドレス P.2-10
- IP 設定リトライ P.2-11
- APIPA P.2-12
- IPv6 P.2-13

メモ

操作パネル以外で TCP/IP を設定する方法

- BRAdmin Light を使用する場合は、「ネットワークプリンタを設定する」P.2-18 を参照してください。
- ウェブブラウザを使用する場合は、「ウェブブラウザで本製品の設定を変更する」P.2-24 を参照してください。
- BRAdmin Professional 3 を使用する場合は、「ネットワークの設定をする」P.7-6 を参照してください。
- その他 TCP/IP を設定する方法は「IP アドレスの設定方法」P.7-3 を参照してください。

IP 取得方法

IP の取得方法を設定します。
本製品の操作パネルを使用する場合は、以下の手順に従ってください。

メモ

DHCP、BOOTP または RARP コンピュータを使用したときに、自動で IP アドレスが割り当てられないよう（静的 IP アドレス）にしたい場合は、「IP シュトク ホウホウ」（IP 取得方法）を「Static」に設定します。本製品の IP アドレスが固定され、DHCP、BOOTP または RARP コンピュータから自動で IP アドレスを取得しなくなります。IP 取得方法を変更する場合は、操作パネルP.2-8、BRAdmin LightP.2-17、BRAdmin Professional 3P.7-5、ウェブブラウザP.2-23を使用してください。

1 **▶、◀、▼、▲のいずれかを押します。**

モードメニューが表示されます。

インサツデ キマス
▼
▲▼デ センタク&OK ボ タン

2 **▼または▲を押して【ネットワーク】を選択し、◀（OK）を押します。**

ネットワーク

3 **▼または▲を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、◀（OK）を押します。**

TCP/IP セッテイ

4 **▼または▲を押して【IP シュトク ホウホウ】を選択し、◀（OK）を押します。**

お買い上げ時は【ジドウ】になっています。

IP シュトク ホウホウ

5 **▼または▲を押して【ジドウ】、【Static】、【RARP】、【BOOTP】、【DHCP】を選択し、◀（OK）を押します。**

IP の取得方法の設定が確定されます。

Static

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

IP の取得方法について

ジドウ　このモードでは、まずネットワーク上の DHCP サーバを検索し、DHCP サーバがある場合は、その DHCP サーバから本製品に自動的に IP アドレスが割り当てられます。DHCP サーバがない場合は、BOOTP サーバを検索します。BOOTP サーバがあり正しく構成された場合は、その BOOTP サーバから本製品に IP アドレスが割り当てられます。
BOOTP サーバがない場合は、RARP サーバを検索します。利用可能な RARP サーバもない場合は、APIPA 機能を使用して本製品に IP アドレスが割り当てられます。詳細は「APIPA を使用して自動的に設定する」P.7-3 を参照してください。

Static　このモードでは、必ず手動で本製品の IP アドレスを設定します。設定した IP アドレスに固定されます。

RARP　UNIX® ホストコンピュータで Reverse ARP（RARP）機能を使用し、本製品の IP アドレスを設定することができます。
詳細は「RARP を使用して IP アドレスを設定する」P.7-3 を参照してください。

BOOTP　BOOTP はサブネットマスクとゲートウェイの構成を許可する利点を持つ、RARP への代替方法です。BOOTP の詳細は「BOOTP を使用する」P.7-4 を参照してください。

DHCP　動的ホスト構成プロトコル（DHCP）は、IP アドレス自動割り当て機能の 1 つです。ネットワーク（Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008、UNIX）上に DHCP サーバがある場合は、その DHCP サーバから本製品に自動的に IP アドレスが割り当てられます。また、どのような RFC1001 と 1002 の対応する dynamic name services にも名前を登録できます。

メモ

小規模なネットワーク環境では、ルータが DHCP サーバの働きをします。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

IP アドレス

本製品の現在の IP アドレスが表示されます。お買い上げ時は APIPA により自動的に割り当てられます。IP アドレスを変更する場合は、「IP シュトクホウホウ」（IP 取得方法）を「Static」に指定してください。また、IP アドレスを手動で変更した場合は、「IP シュトクホウホウ」（IP 取得方法）は自動的に「Static」になります。
「Static」以外の「IP シュトクホウホウ」（IP 取得方法）が選択されている場合は、DHCP や BOOTP などのプロトコルを使用して IP アドレスを自動的に取得します。

1 ▶、◀、▼、▲のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

インサツデ キマス
▼
▲▼デ センタク&OK ボ タン

2 ▼または▲を押して【ネットワーク】を選択し、◀（OK）を押します。

ネットワーク

3 ▼または▲を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、◀（OK）を押します。

TCP/IP セッテイ

4 ▼または▲を押して【IPアドレス】を選択し、◀（OK）を押します。

お買い上げ時は【169.254.xxx.xxx】（xxx は自動付与）または【000.000.000.000】（ケーブル未接続の場合）になっています。

IP アド レス

5 ▼または▲を押して1桁ずつIPアドレスを変更し、◀（OK）を押します。

次のブロック（右）にカーソルが移動します。
同様の手順で 2 桁目以降の IP アドレスを変更します。
▶を押すと、1 つ前のブロックにカーソルが移動します。

169.254.000.000

6 IPアドレスの変更が完了したら、◀（OK）を押します。

IP アドレスの設定が確定されます。

162.168.210.242＊

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

サブネットマスク

本製品が使用する現在のサブネットマスクを表示します。DHCP または BOOTP、APIPA を使用していない場合、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

、、、のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

ｲﾝｻﾂﾃﾞｷﾏｽ
▼
▲▼ﾃﾞｾﾝﾀｸ&OKﾎﾞﾀﾝ

2 または を押して【ネットワーク】を選択し、(OK)を押します。

ﾈｯﾄﾜｰｸ

3 または を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、(OK)を押します。

TCP/IP ｾｯﾃｲ

4 または を押して【サブネットマスク】を選択し、(OK)を押します。

ｻﾌﾞﾈｯﾄ ﾏｽｸ

お買い上げ時は【255.255.000.000】または【000.000.000.000】（ケーブル未接続の場合）になっています。

5 または を押して1桁ずつサブネットマスクを変更し、(OK)を押します。

255.255.000.000

次のブロック（右）にカーソルが移動します。
同様の手順で 2 桁目以降のサブネットマスクを変更します。

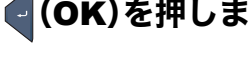
を押すと、1 つ前のブロックにカーソルが移動します。

6 サブネットマスクの変更が完了したら、(OK)を押します。

255.255.255.000＊

サブネットマスクの設定が確定されます。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイアドレス（ルータ）のアドレスを表示します。DHCP や BOOTP を使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイやルータを使用しない場合は初期値 (000.000.000.000) にしてください。アドレスが不明な場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

、、、のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

ｲﾝｻﾂﾃﾞｷﾏｽ
▼
▲▼ﾃﾞｾﾝﾀｸ&OKﾎﾞﾀﾝ

または を押して【ネットワーク】を選択し、(OK) を押します。

ﾈｯﾄﾜｰｸ

3 または を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、(OK) を押します。

TCP/IP ｾｯﾃｲ

4 または を押して【ゲートウェイ】を選択し、(OK) を押します。

ｹﾞｰﾄｳｪｲ

お買い上げ時は【000.000.000.000】になっています。

5 または を押して1桁ずつゲートウェイを変更し、(OK) を押します。

000.000.000.000

次のブロック（右）にカーソルが移動します。
同様の手順で 2 桁目以降のゲートウェイを変更します。

を押すと、1 つ前のブロックにカーソルが移動します。

6 ゲートウェイの変更が完了したら、(OK) を押します。

101.101.101.102＊

ゲートウェイの設定が確定されます。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

IP 設定リトライ

設定した「IP シュトク ホウホウ」P.2-6 で IP アドレスを取得できなかった場合に、何回再試行するかを設定します。

、、、のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

インサツデ キマス
▼
▲▼デ センタク&OK ボ タン

または を押して【ネットワーク】を選択し、(OK)を押します。

ネットワーク

または を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、(OK)を押します。

TCP/IP セッテイ

4

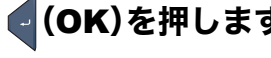
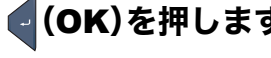
または を押して【IP セッテイリトライ】を選択し、(OK)を押します。

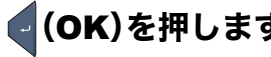
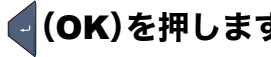
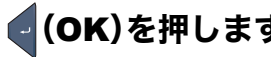
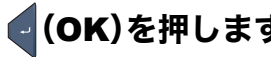
お買い上げ時は【3】になっています。

IP セッテイリトライ

または を押してリトライ回数を変更し、(OK)を押します。

リトライ回数の設定が確定されます。

5

APIPA

DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合に、APIPA（AutoIP）機能によって本製品に IP アドレスを自動的に割り当てることができます。このとき、IP アドレスは 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で割り当てられます。割り当てられた IP アドレスがお使いのネットワーク環境の IP アドレスの設定規則に適さない場合は、操作パネルP.2-8 や BRAdmin LightP.2-17 、BRAdmin Professional 3P.7-5 、ウェブブラウザP.2-23 から IP アドレスを変更してください。

1 ▶、◀、▼、▲のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

インサツデ゛キマス
▼
▲▼デ゛センタク&OKボ゛タン

2 ▼または▲を押して【ネットワーク】を選択し、◀（OK）を押します。

ネットワーク

3 ▼または▲を押して【TCP/IP セッテイ】を選択し、◀（OK）を押します。

TCP/IP セッテイ

4 ▼または▲を押して【APIPA】を選択し、◀（OK）を押します。

お買い上げ時は【On】になっています。

APIPA

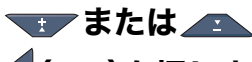
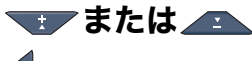
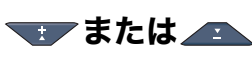
5 ▼または▲を押して【On】または【Off】を選択し、◀（OK）を押します。

APIPA の設定が確定されます。

Off

メモ

IP アドレスの自動設定機能（APIPA）

- APIPA プロトコルを使用していると、169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で自動的に IP アドレスが割り当てられます。
  サブネットマスク：255.255.0.0
  ゲートウェイ：0.0.0.0
- APIPA による割り当ては、使用しているネットワークでの IP アドレス設定規則に適さない場合があります。そのような場合は、使用しているネットワークに合わせて手動で IP アドレスを設定します。
- お買い上げ時は、APIPA プロトコルは使用可能に設定されています。

IPv 6

本製品は次世代インターネットプロトコル IPv 6 に対応しています。
IPv 6 についての詳細は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）を参照してください。
以下は IPv6 を有効にする手順です。

IPv6 の設定が確定されます。

メモ

設定を変更した場合は、本製品の電源を入れ直した後に設定が有効になります。

イーサネット

イーサネットの転送速度を設定します。
この設定に対する変更を有効にするためには、本製品の電源を入れ直す必要があります。

メモ
誤った設定をすると、本製品にアクセスできなくなることがあります。

1 **、、、のいずれかを押します。**

モードメニューが表示されます。

インサツデ゛キマス
▼
▲▼デ゛センタク&OKボ゛タン

2 **または を押して【ネットワーク】を選択し、(OK)を押します。**

ネットワーク

3 **または を押して【イーサネット】を選択し、(OK)を押します。**

イーサネット

4 **または を押して【ジドウ】、【100B-FD】、【100B-HD】、【10B-FD】、【10B-HD】から選択し、(OK)を押します。**

100B-FD

お買い上げ時は【ジドウ】になっています。
イーサネットの設定が確定されます。

Ethernet リンクモードについて

ジドウ：　100Base-TX（全二重 / 半二重）、10Base-T（全二重 / 半二重）モードを自動接続により選択します。

100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD：
それぞれのリンクモードに固定されます。

メモ
設定を変更した場合は、本製品の電源を入れ直した後に設定が有効になります。

ネットワーク設定一覧を印刷する

本製品の設定値を一覧で表示した「ネットワーク設定一覧」を印刷します。

メモ

- **ノード名**
  ネットワーク設定一覧にはノード名が印刷されます。お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。(「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。)
- **ネットワーク設定一覧を印刷する他の方法**
  BRAdmin Professional 3（Windows® のみ）またはウェブブラウザを使用して印刷することもできます。

、、、のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

ｲﾝｻﾂﾃﾞｷﾏｽ
▼
▲▼ﾃﾞ ｾﾝﾀｸ&OK ﾎﾞﾀﾝ

2 【セイヒン ジョウホウ】が表示されていることを確認して、(OK)を押します。

ｾｲﾋﾝ ｼﾞｮｳﾎｳ

3 または を押して【ネットワークセッテイ インサツ】を選択し、(OK)を押します。

ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾃｲ ｲﾝｻﾂ

設定メニューと設定値のリストが印刷されます。

メモ

「ネットワーク設定一覧」の IP アドレスが「0.0.0.0」になっているときは、LAN ケーブルが接続されていることを確認し、約 1 分待ってから操作をやり直してください。

ネットワーク設定をリセットする

IP アドレス情報など、すでに設定しているネットワークのすべての情報をリセットします。

メモ

ネットワーク設定をお買い上げ時の設定にリセットする他の方法

- BRAdmin Light P.2-17 または BRAdmin Professional 3（Windows® のみ）P.7-5 を使用できます。
- ウェブブラウザを使用する場合は、「ウェブブラウザで管理する」P.2-23 を参照してください。

▶、◀、▼、▲のいずれかを押します。

モードメニューが表示されます。

ｲﾝｻﾂﾃﾞｷﾏｽ
▼
▲▼ﾃﾞ ｾﾝﾀｸ &OK ﾎﾞﾀﾝ

▼または▲を押して【ネットワーク】を選択し、◀（OK）を押します。

ﾈｯﾄﾜｰｸ

3

▼または▲を押して【LANセッテイ リセット】を選択し、◀（OK）を押します。

LAN ｾｯﾃｲ ﾘｾｯﾄ

再度◀（OK）を押します。

設定メニューを終了し、本製品が自動的に再起動します。

BRAdmin Light で設定する

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する

BRAdmin Lightは、ネットワークに接続されているブラザー製品の初期設定用ユーティリティです。ネットワーク上のブラザー製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定ができます。
BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP、Windows Vista®、Windows Server® 2003/2008、Mac OS X 10.3.9 以降のコンピュータで利用できます。
Windows® をご使用の場合は、本製品に付属の「かんたん設置ガイド」を参照し、BRAdmin Light をインストールしてください。
Macintosh をご使用の場合は、プリンタドライバをインストールすると、自動的に BRAdmin Light もインストールされます。すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、再度インストールする必要はありません。

メモ

- BRAdmin Light についての詳細は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）でもご参照いただけます。
- Windows® をご使用の場合は、BRAdmin Professional 3 を利用して、さらに詳細な設定ができます。P.7-5 BRAdmin Professional 3 は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）からダウンロードできます。
- Windows® XP で、「インターネット接続ファイアウォール（Windows® ファイアウォール）」を有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効に設定してください。（Windows® XP Service Pack 2 以降をお使いのお客様は、BRAdmin Light のインストール時に、Windows® ファイアウォールの例外として BRAdmin Light を追加すれば、Windows® ファイアウォール機能を無効にする必要はありません。）
  詳しい設定方法については「Windows® XP Service Pack2 以降の場合」P.6-11 を参照してください。
- アンチウイルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Light の「稼働中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。
- **ノード名**
  ノード名は、BRAdmin Light のウィンドウに表示されます。
  お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）
- 本製品のお買い上げ時のパスワードは“access”に設定されています。

ネットワークプリンタを設定する

TCP/IP を利用して印刷するには、本製品に IP アドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定する必要があります。

メモ

ゲートウェイの設定
ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つ IP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータの IP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

IP アドレスは以下の方法で割り当てます。

- **IP アドレス配布サーバを利用している場合**
  本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。
- **IP アドレス配布サーバを利用していない場合**
  DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境の IP アドレス設定規則に適さない場合は、BRAdmin Light を使用して本製品の IP アドレスを設定してください。

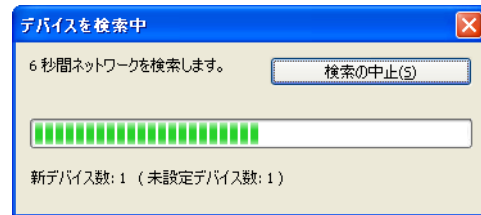
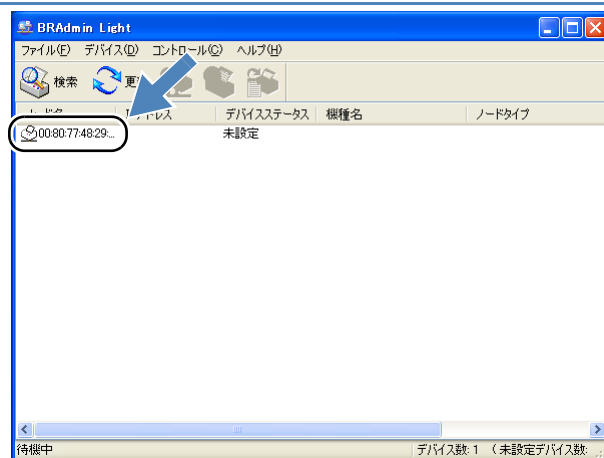
メモ

お買い上げ時の IP アドレス
IP アドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下の通りです。
・IP アドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA 機能による自動割当）
現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定一覧」を印刷します。詳しくは、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

Windows® の場合

[スタート]メニューから[すべてのプログラム(プログラム)]－[Brother]－[BRAdmin Light]－[BRAdmin Light]の順にクリックして、BRAdmin Lightを起動します。

自動的に新しいデバイスの検索が開始されます。

未設定のデバイスをダブルクリックします。

メモ

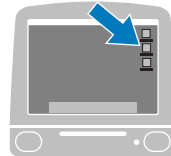
- IP アドレスがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、ウィンドウの右側に本製品の IP アドレスが表示されます。
- 新しいデバイスが表示されない場合は、［検索］をクリックしてください。
- ノード名は、「ネットワーク設定一覧」を印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

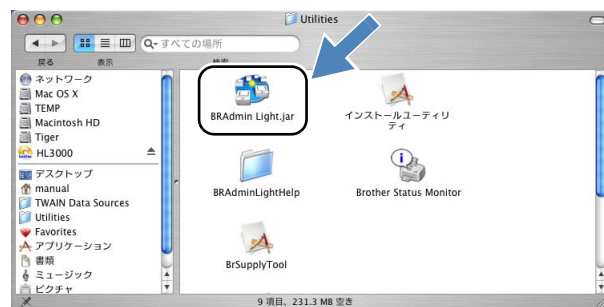
「IP取得方法」から[STATIC]を選びます。[IPアドレス][サブネットマスク][ゲートウェイ]を入力し、[OK]をクリックします。

アドレス情報が本製品に保存されます。

Macintosh の場合

メモ
バージョン 1.4.1_07 以降の Java がインストールされている必要があります。

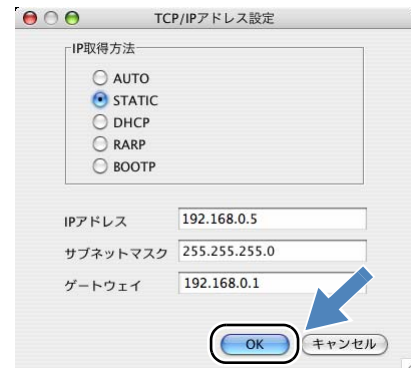
1 デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。

2 [ライブラリ]、[Printers]、[Brother]、[Utilities]の順に選択します。

3 [BRAdmin Light.jar]をダブルクリックして、BRAdmin Light を起動します。

4 未設定のデバイスをダブルクリックします。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

メモ

- IP アドレスがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、ウィンドウの右側に本製品の IP アドレスが表示されます。
- 新しいデバイスが表示されない場合は、［検索］をクリックしてください。
- ノード名は、「ネットワーク設定一覧」を印刷して確認できます。詳しくは、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

「IP取得方法」から［STATIC］を選びます。［IPアドレス］［サブネットマスク］［ゲートウェイ］を入力し、［OK］をクリックします。

6 **アドレス情報が本製品に保存されます。**

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

本製品の設定を変更する

BRAdmin Lightを起動します。

- Windows® の場合
  ［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順にクリックします。
- Macintosh の場合
  デスクトップ上の［Macintosh HD］（起動ディスク）から［ライブラリ（Library）］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］の順に開き、［BRAdmin Light.jar］をダブルクリックします。

2 **設定を変更する本製品を選択します。**

3 **[コントロール]メニューから[ネットワーク設定]をクリックします。**

4 **パスワードを入力し、[OK]をクリックします。**

お買い上げ時のパスワードは“access”に設定されています。

5 **必要に応じて、本製品の設定を変更します。**

メモ

Windows® をご使用の場合は、BRAdmin Professional 3 を利用して、さらに詳細な設定ができます。P.7-5 BRAdmin Professional 3 は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。

ウェブブラウザで管理する

概要

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されているブラザー製品の管理ができます。コンピュータにインストールされている標準ウェブブラウザを使用して、ネットワーク上のブラザー製品のステータス情報を取得し、本体設定およびネットワーク設定を変更することができます。

メモ

- Windows® の場合は Microsoft® Internet Explorer® 6.0 以降または Firefox 1.0 以降、Macintosh の場合は Safari1.3 以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScript およびクッキーを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- ウェブブラウザを使用するには、本製品の IP アドレスが設定されていることが必要です。
- 本製品のお買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

ウェブブラウザを使用して、以下のことができます。

- 本製品のステータス、設定、メンテナンスに関する詳細情報の取得
- 本製品とプリントサーバのソフトウェアバージョン情報の取得
- 本製品の設定変更
- ネットワークの設定変更
- テストページ、プリンタ設定一覧、ネットワーク設定一覧の印刷
- プリンタ設定リセット
- ネットワーク設定リセット

●条件

- コンピュータが TCP/IP プロトコルを使用可能なこと
- コンピュータがネットワークに接続されていること
- 本製品とコンピュータに有効な IP アドレスが設定されていること

●設定の流れ

1. TCP/IP プロトコルによってコンピュータがネットワーク接続されていることを確認します。
2. ウェブブラウザを起動し、アドレスに本製品の IP アドレスを入力します。P.2-24

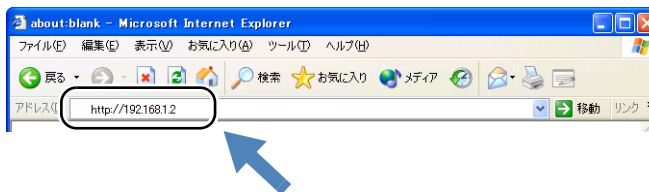
メモ

- BRAdmin アプリケーションを使用して、本製品の管理やネットワーク設定ができます。
- 本製品は SSL 通信（HTTPS）に対応しています。「ネットワークプリンタを安全に管理する」P.5-5 を参照してください。

ウェブブラウザで本製品の設定を変更する

ウェブブラウザを起動します。

ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/ ([ip_address]はご使用になるプリンタの IPアドレス)を入力します。

例)
本製品のIPアドレスが192.168.1.2の場合ブラウザにhttp://192.168.1.2/と入力します。

メモ

- hosts ファイルを編集した場合や、DNS(ドメインネームシステム)を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。ノード名は、ネットワーク設定一覧 P.2-15 に表示されます。
  お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
  (「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス(イーサネットアドレス)の 12 桁です。)
- Macintosh をお使いの場合は、ステータスモニタ画面のプリンタアイコンをダブルクリックするだけで、ウェブブラウザから本製品の管理画面に簡単にアクセスできます。詳しい情報は、「ユーザーズガイド〜基本編〜」を参照してください。

[ネットワーク設定]をクリックします。

[ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。

必要に応じて、本製品の設定を変更します。

メモ

プロトコル設定を変更した場合は、設定を有効にするために [OK] をクリックして本製品を再起動してください。

第 3 章
ネットワーク印刷機能

ネットワークプリンタとして使う（Windows®）

「かんたん設置ガイド」の手順に従ってドライバのインストールを進めると、自動的にネットワークの設定が完了します。CD-ROM 内のインストーラを使用しないでプリンタドライバのみインストールする場合は、以下の手順で設定してください。

Windows® をご使用の場合で、CD-ROM 内のインストーラアプリケーションを使用しないでネットワークを設定するときは、ピアツーピア接続で TCP/IP プロトコルを使用します。以下の手順に従ってください。この章では、ネットワーク機器を利用して印刷するために必要なネットワークソフトウェアとプリンタドライバのインストール方法について説明します。

プリンタドライバをインストールしていない場合

「プリンタの追加ウィザード」で本製品へのポートの追加とプリンタドライバのインストールを行います。
すでにコンピュータへプリンタドライバをインストールしている場合は、「プリンタドライバがすでにインストールされている場合」P.3-10 を参照してください。

メモ

- この章の内容を操作する前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。詳細については、「第 2 章 ネットワークの設定」を参照してください。
- ネットワークに共有プリンタとして接続している場合、インストールの詳細については、「ネットワークプリンタキューと共有を使用する」P.7-13 を参照してください。
- “ホストコンピュータと本製品が同じサブネット上にあるか”、または “ルータが 2 つのデバイス間で正しくデータのやり取りができるように設定されているか” のどちらかを確認してください。
- 本製品のお買い上げ時のユーザ名は “admin” で、パスワードは “access” に設定されています。
- 本製品のドメイン名のお買い上げ時の設定は、“workgroup” です。変更するには、BRAdmin Professional 3 を使用してください。

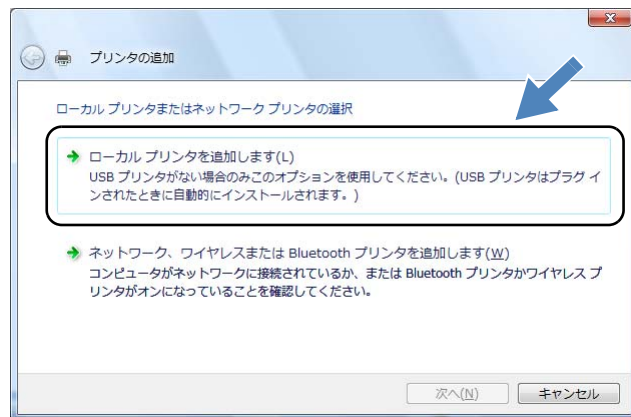
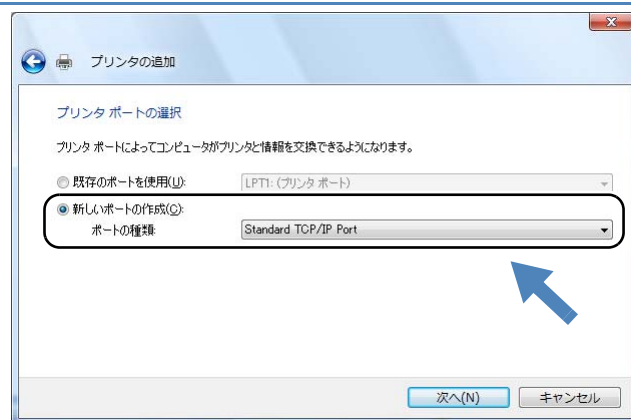
Windows Vista®、Windows Server® 2008 の場合

[スタート]メニューから[コントロールパネル]をクリックし、[ハードウェアとサウンド]の[プリンタ]をクリックします。

[プリンタのインストール]をクリックします。

「プリンタの追加」が表示されます。

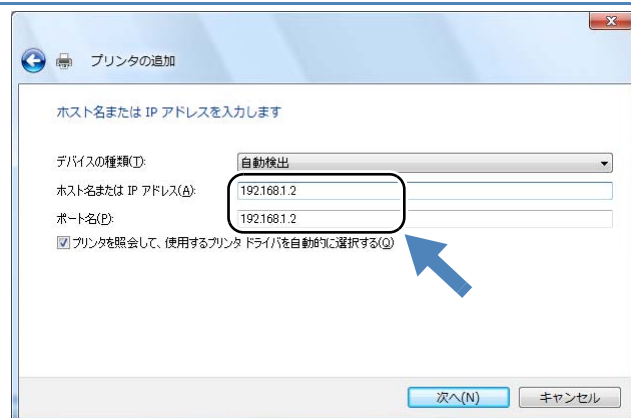
はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

[ローカルプリンタを追加します]をクリックします。

「新しいポートの作成」を選択し、「ポートの種類」から「Standard TCP/IP Port」を選択します。

[次へ]をクリックします。

本製品の「ホスト名または IP アドレス」を入力します。

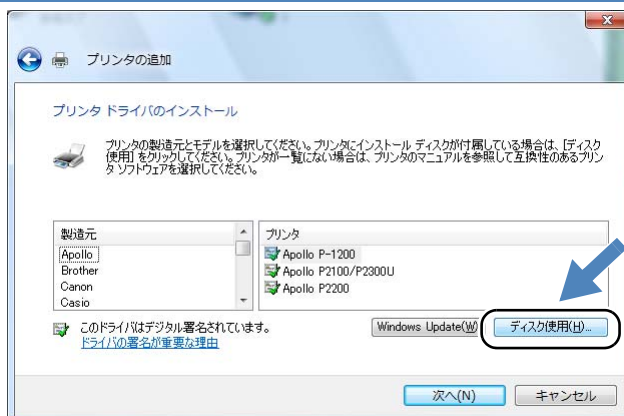
「ポート名」は自動的に入力されます。

例)　192.168.1.2 の場合
IP アドレスを入力すると、ポート名には自動的に［192.168.1.2］が入力されます。

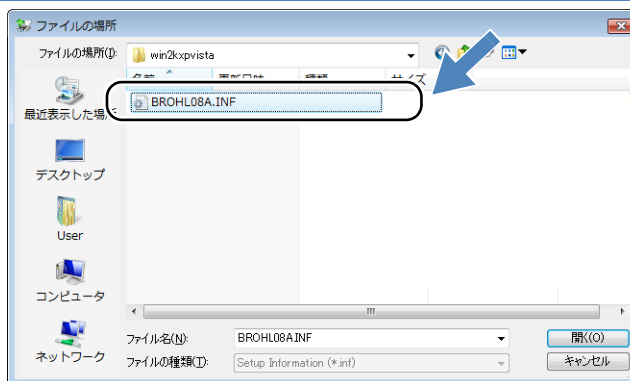
メモ

本製品の IP アドレスが DHCP などで自動的に割り当てられている場合は、IP アドレスが自動的に変更される場合があるため、ノード名で設定することをおすすめします。本製品のノード名は、BRAdmin Light P.2-17 またはネットワーク設定一覧 P.2-15 で確認できます。

[次へ]をクリックします。

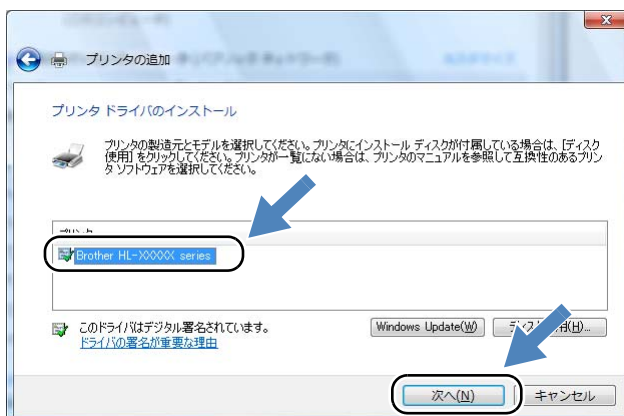
入力したプリンタ名または IP アドレスが間違っている場合はエラーメッセージが表示されます。正しい内容を入力し直してください。

8 **[ディスク使用]をクリックします。**

9 **付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットし、[参照]をクリックします。**

10 **「ファイルの場所」から　CD-ROMドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択します。**

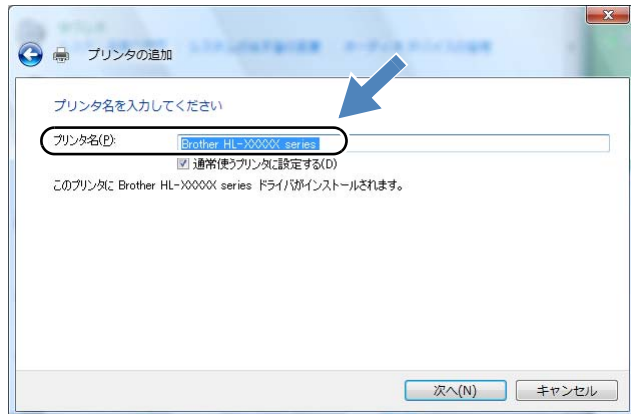
X:install￥jpn￥PCL￥win2kxpvista
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

11 **[開く]をクリックします。**

12 **[OK]をクリックします。**

13 **プリンタのリストから本製品を選択し、[次へ]をクリックします。**

メモ

- コンピュータがインターネットに接続されている場合は、[Windows　Update] をクリックし、Microsoft 社のホームページからプリンタドライバを直接ダウンロードすることもできます。
- すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
  「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、[次へ] をクリックします。

14 必要に応じて､｢プリンタ名｣を変更します。

例）　ブラザーネットワークプリンタ

15 複数のプリンタドライバがインストールされている場合は､本製品を通常使うプリンタに設定するかどうかを選択し､[次へ]をクリックします。

メモ

- 「ユーザアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- 「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」という警告メッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックし、インストールを続けます。

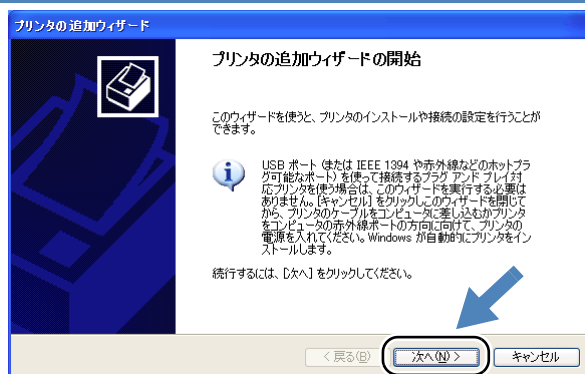
16 テストページを印刷する場合は､[テストページの印刷]をクリックします。

正しく印刷されたかを確認し、[閉じる] をクリックしてください。

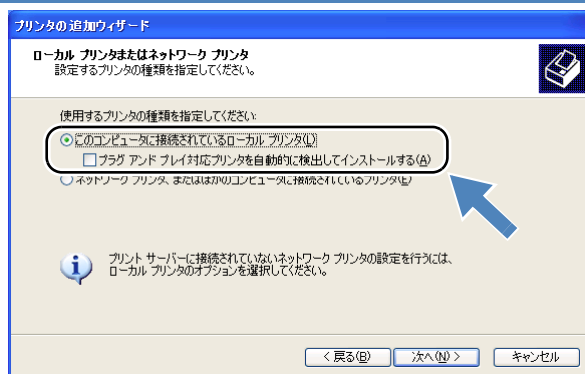
17 [完了]をクリックします。

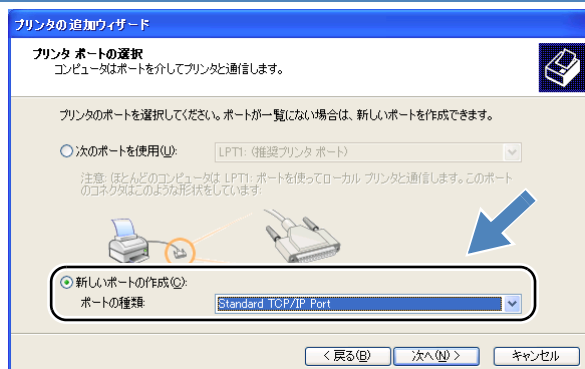
Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 の場合

- **Windows® XPの場合は、[スタート]メニューから[プリンタとFAX]を選択し、「プリンタのインストール」をクリックします。**
- **Windows® 2000の場合は、[スタート]メニューから[設定]−[プリンタ]の順にクリックし、「プリンタの追加」をダブルクリックします。**
- **Windows Server® 2003の場合は、[スタート]メニューから[プリンタとFAX]を選択し、[プリンタの追加]をダブルクリックします。**

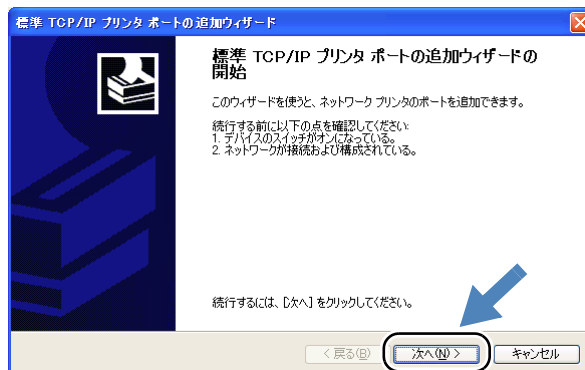
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

3 「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」をクリックし、「プラグ アンド プレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする」チェックボックスをはずします。

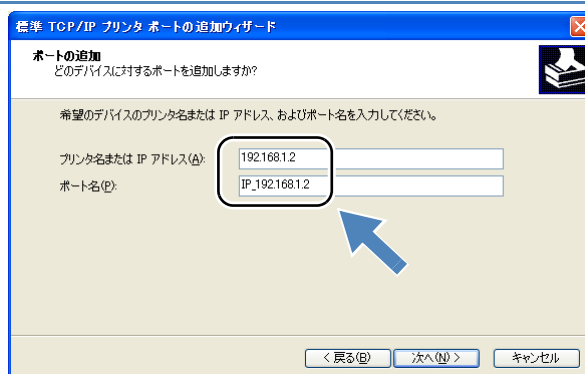
- Windows® 2000 の場合は、「ローカルプリンタ」をクリックし、「プラグ アンド プレイ プリンタを自動的に検出してインストールする」チェックボックスをはずします。

[次へ]をクリックします。

「新しいポートの作成」をクリックし、「ポートの種類」から「Standard TCP/IP Port」を選びます。

[次へ]をクリックします。

「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

本製品の「プリンタ名またはIPアドレス」を入力します。

「ポート名」は自動的に入力されます。

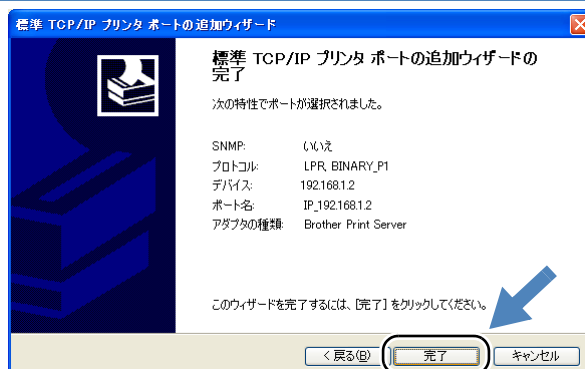
例） 192.168.1.2 の場合
IP アドレスを入力すると、ポート名には自動的に［IP_192.168.1.2］が入力されます。

メモ

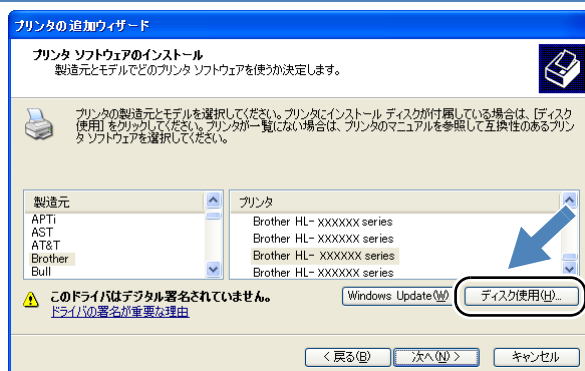
本製品の IP アドレスが DHCP などで自動的に割り当てられている場合は、IP アドレスが自動的に変更される場合があるため、ノード名で設定することをおすすめします。本製品のノード名は、BRAdmin Light P.2-17 またはネットワーク設定一覧 P.2-15 で確認できます。

[次へ]をクリックします。

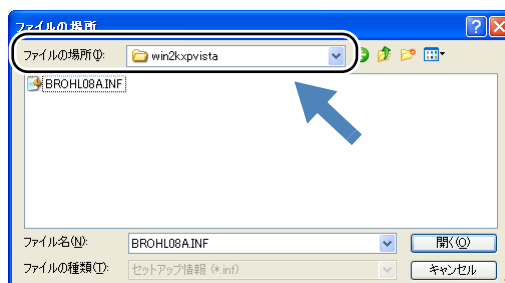
入力したプリンタ名または IP アドレスが間違っている場合はエラーメッセージが表示されます。正しい内容を入力し直してください。

[完了]をクリックします。

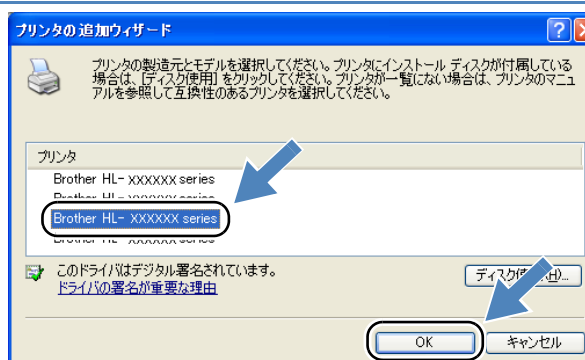
「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」が終了し、「プリンタの追加ウィザード」に戻ります。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

11 [ディスク使用]をクリックします。

12 付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットし、[参照]をクリックします。

13 「ファイルの場所」からCD-ROMドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択します。

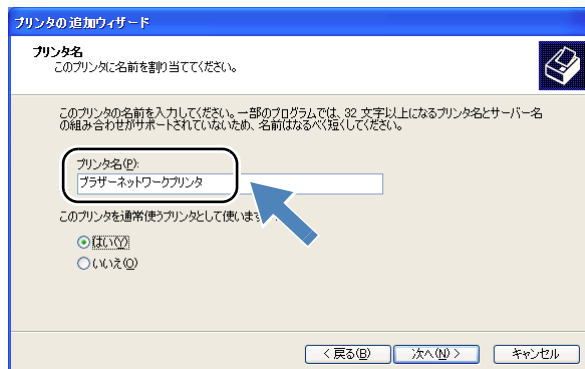
X:install￥jpn￥PCL￥win2kxpvista
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

14 [開く]をクリックします。

15 [OK]をクリックします。

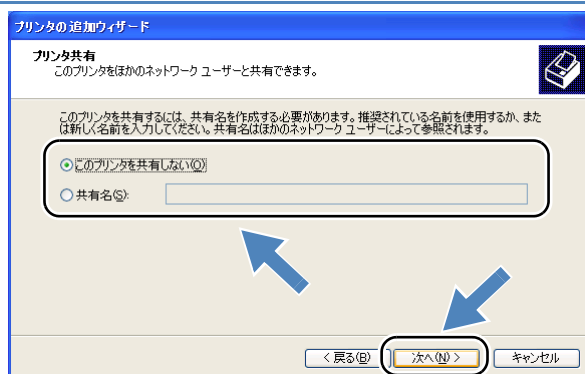
16 プリンタのリストから本製品を選択し、[OK]をクリックします。

メモ

- コンピュータがインターネットに接続されている場合は、[Windows Update] をクリックし、Microsoft 社のホームページからプリンタドライバを直接ダウンロードすることもできます。
- すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、[次へ] をクリックします。

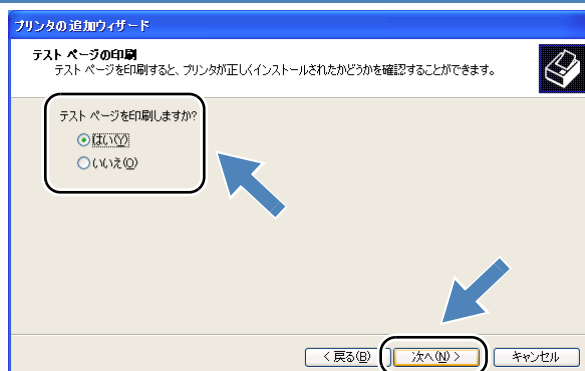
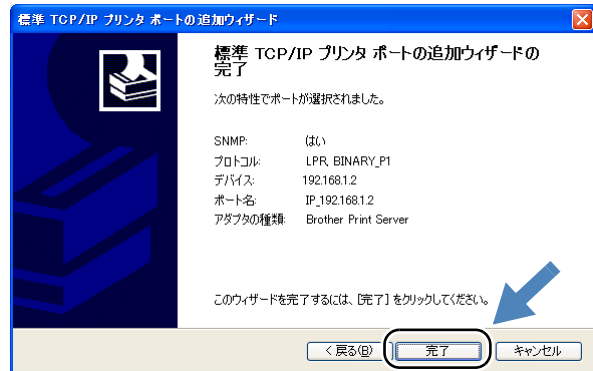
必要に応じて、「プリンタ名」を変更します。

例）　ブラザーネットワークプリンタ

18 複数のプリンタドライバがインストールされている場合は、本製品を通常使うプリンタとして設定するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

19 「プリンタ共有」の画面が表示された場合は、本製品を共有するかどうかを選択し、共有する場合は「共有名」を入力して、[次へ]をクリックします。

メモ

共有した場合は、必要に応じて「場所」と「コメント」を入力して、[次へ] をクリックします。

20 テストページを印刷するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

- [はい] を選んだ場合は、正しく印刷されたかを確認してください。
- [いいえ] を選んだ場合は、あとでテスト印刷を行い、正しく印刷されるかを確認してください。

21 **[完了]をクリックします。**

プリンタドライバがすでにインストールされている場合

以下の手順でポートの追加と本製品の関連付けをします。

● Windows Vista®、Windows Server® 2008 の場合

1 **[スタート]メニューから[コントロールパネル]をクリックし、[ハードウェアとサウンド]の[プリンタ]をクリックします。**

2 **「Brother HL-3040CN series」のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**

3 **[ポート]タブをクリックし、[ポートの追加]をクリックします。**

4 **[Standard TCP/IP Port]を選択し、[新しいポート]をクリックします。**

「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」が表示されます。

5 **[次へ]をクリックします。**

6 **本製品の「ホスト名またはIPアドレス」を入力します。**

「ポート名」は自動的に入力されます。

例） 192.168.1.2 の場合
IP アドレスを入力すると、ポート名には自動的に［192.168.1.2］が入力されます。

7 **[次へ]をクリックします。**

入力したプリンタ名または IP アドレスが間違っている場合はエラーメッセージが表示されます。
正しい内容を入力し直してください。

8 **[完了]をクリックします。**

9 **「プリンタポート」ダイアログボックスおよび本製品のプロパティ画面を閉じます。**

Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003の場合

1
- **Windows® XPおよびWindows Server® 2003の場合は、[スタート]メニューから[プリンタとFAX]をクリックします。**
- **Windows® 2000の場合は、[スタート]メニューから[設定]ー[プリンタ]の順にクリックします。**

2 **「Brother HL-3040CN series」のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**

3 **[ポート]タブをクリックし、[ポートの追加]をクリックします。**

4 **[Standard TCP/IP Port]を選択し、[新しいポート]をクリックします。**

「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」が表示されます。

5 **「プリンタドライバをインストールしていない場合」の「Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003の場合」の手順7～10** P.3-7 **を実行します。**

ネットワークプリンタとして使う（Macintosh）

Macintosh プリンタドライバを使う

簡易ネットワーク設定機能を使用すると、ネットワーク上に接続されているプリンタを簡単に使用できるようになります。
簡易ネットワーク設定機能を使う前に、プリンタドライバをインストールする必要があります。「かんたん設置ガイド」の手順に従ってドライバのインストールを進めてください。自動的にネットワークの設定が完了します。IP アドレスや本製品のネットワーク構成を手動で設定する必要はありません。

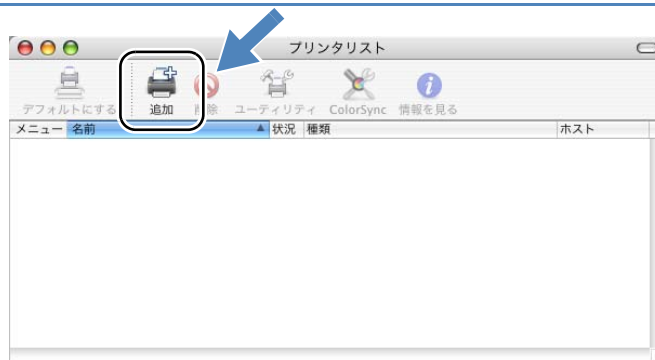
Mac OS X 10.3.9 ～ 10.4.x の場合

1 本製品の電源スイッチをONにします。

2 [移動]メニューから[アプリケーション]を選択します。

3 「ユーティリティ」をクリックします。

4 「プリンタ設定ユーティリティ」をダブルクリックします。

5 [追加]をクリックします。

6 本製品を選択し、[追加]をクリックします。

本製品が利用できるようになります。

Mac OS X 10.3.9 の場合

Mac OS X 10.4.x の場合

Mac OS X 10.5.x の場合

1 本製品の電源スイッチをONにします。

2 [アップル]メニューの[システム環境設定]を選択します。

3 [プリントとファクス]をクリックします。

4 [+]をクリックします。

5 本製品を選択し、[追加]をクリックします。

本製品が利用できるようになります。

第 4 章
インターネット印刷機能

インターネット印刷機能を設定する

概要

Windows® が標準サポートしている TCP/IP と IPP プロトコルを使用して、インターネット印刷をすることができます。

Windows® のインターネット印刷機能を使用するには、次の手順を実行します。

メモ

- この章の内容を操作する前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。詳細については、「第 2 章 ネットワークの設定」を参照してください。
- “ホストコンピュータと本製品が同じサブネット上にあるか”または“ルータが 2 つのデバイス間でデータを渡すように正しく設定されているか”のどちらかを検証してください。
- お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは“access”に設定されています。
- 本製品は IPPS に対応しています。「IPPS を使って文書を安全に印刷する」P.5-13 を参照してください。

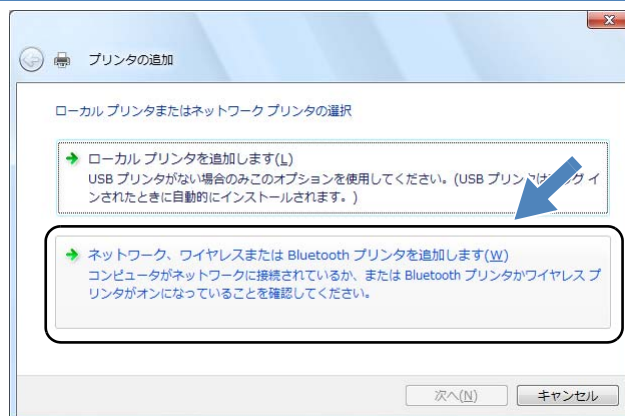
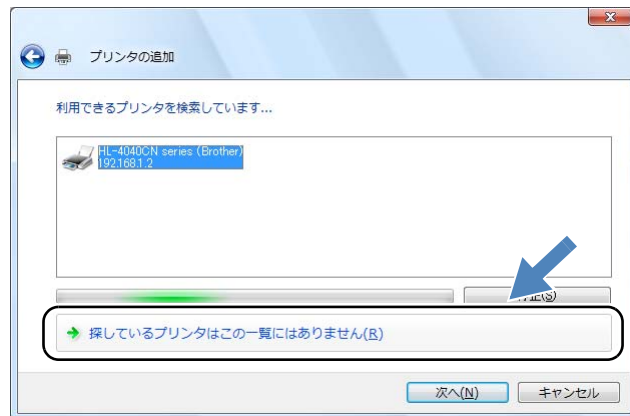
はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

Windows Vista®、Windows Server® 2008 の場合

[スタート]メニューから[コントロールパネル]をクリックし、[ハードウェアとサウンド]の[プリンタ]をクリックします。

[プリンタのインストール]をクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

3 [ネットワーク、ワイヤレスまたはBluetoothプリンタを追加します]をクリックします。

[探しているプリンタはこの一覧にはありません]をクリックします。

[共有プリンタを名前で選択する]をクリックし、[URL:]ボックスに次のURLを入力します。

http://printer_ip_address:631/ipp

printer_ip_address は本製品の IP アドレスまたはノード名です。

例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
http://192.168.1.2:631/ipp

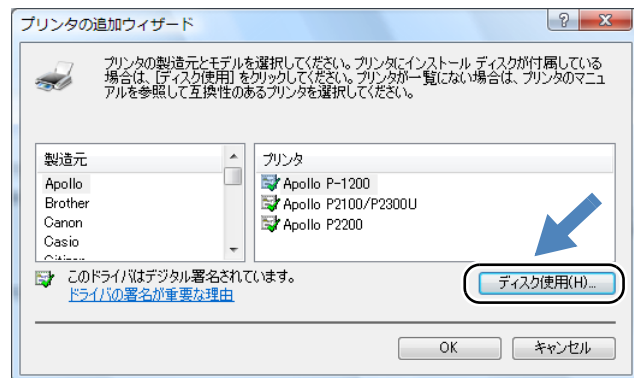
メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。ノード名は、ネットワーク設定一覧 P.2-15 に表示されます。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

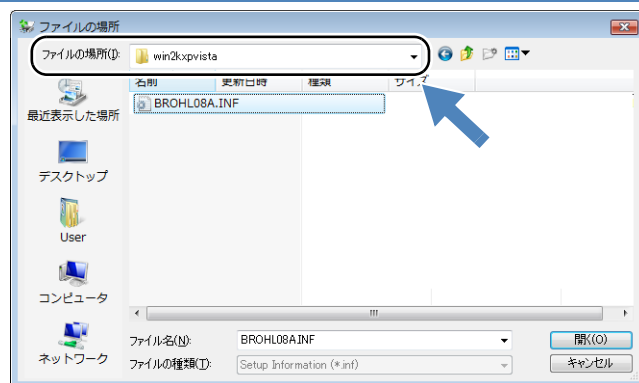
[次へ]をクリックします。

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。
  すでにインストールされているプリンタドライバを使用するかどうかを選択し［OK］をクリックします。
  手順 13 に進んでください。
- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  IPP 印刷プロトコルのメリットの 1 つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類を Windows Vista® に対して指定する必要はありません。
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタの追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順 7 に進んでください。

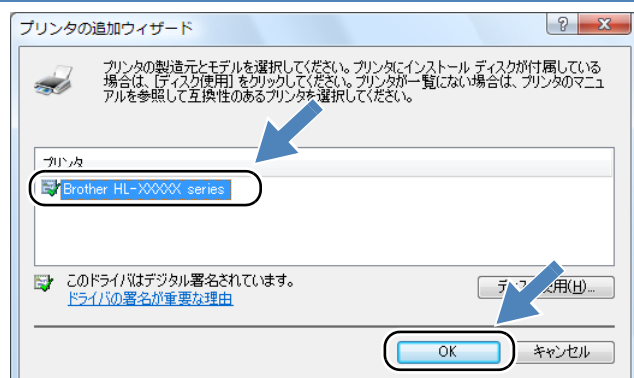
[ディスク使用]をクリックします。

8 付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットし、[参照]をクリックします。

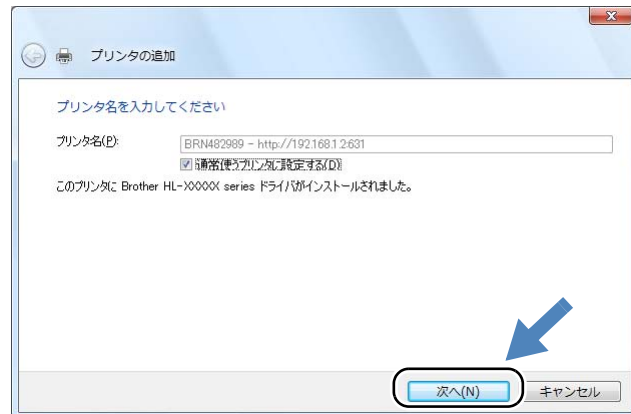
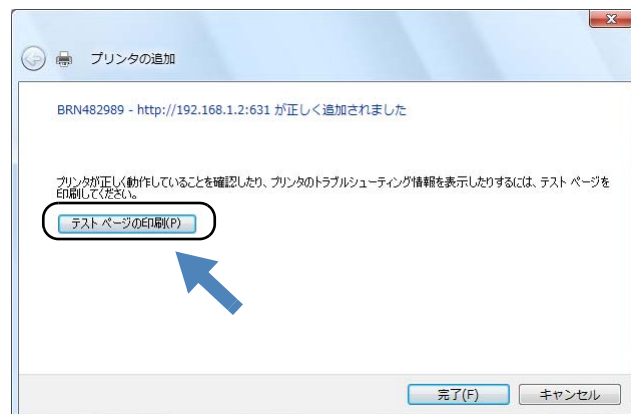
9 「ファイルの場所」からCD-ROMドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択します。

X:install￥jpn￥PCL￥win2kxpvista
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

10 [開く]をクリックします。

11 [OK]をクリックします。

12 プリンタのリストから本製品を選択し、[OK]をクリックします。

メモ

- 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- コンピュータがインターネットに接続されている場合は、[Windows　Update] をクリックし、Microsoft 社のホームページからプリンタドライバを直接ダウンロードすることもできます。
- すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
  「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、[次へ] をクリックします。

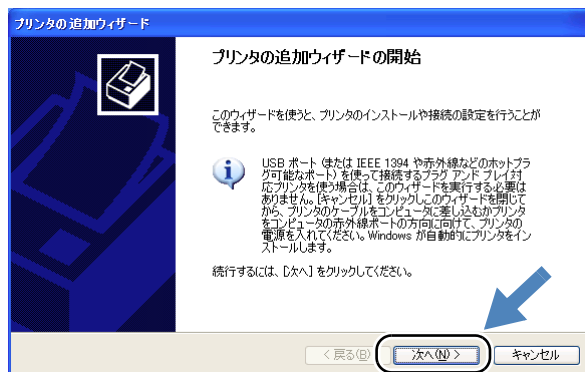
13 複数のプリンタドライバがインストールされている場合は、本製品を通常使うプリンタに設定するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

14 テストページを印刷する場合は、[テストページの印刷]をクリックします。

正しく印刷されたかを確認し、[閉じる] をクリックしてください。

15 [完了]をクリックします。

Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 の場合

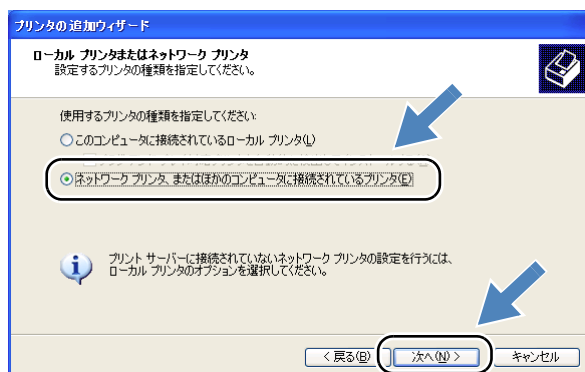
[スタート]メニューから[プリンタとFAX]を選択し、「プリンタのインストール」をクリックします。

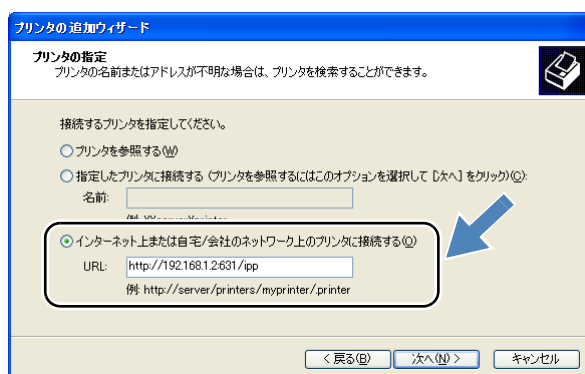
- Windows® 2000 の場合は、[スタート] メニューから [設定] − [プリンタ] の順にクリックし、「プリンタの追加」をダブルクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

[次へ]をクリックします。

[ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ]をクリックし、[次へ]をクリックします。

- Windows® 2000 の場合は、[ネットワークプリンタ] をクリックします。

[プリンタの指定] 画面が表示されます。

[インターネット上または自宅/会社のネットワーク上のプリンタに接続する]をクリックし、[URL:]ボックスに次のURLを入力します。

- Windows® 2000 の場合は、[インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します] をオンにし、[URL:] ボックスに次の URL を入力します。

http://printer_ip_address:631/ipp

printer_ip_address は本製品の IP アドレスまたはノード名です。

例） 本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
http://192.168.1.2:631/ipp

メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。ノード名は、ネットワーク設定一覧P.2-15 に表示されます。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

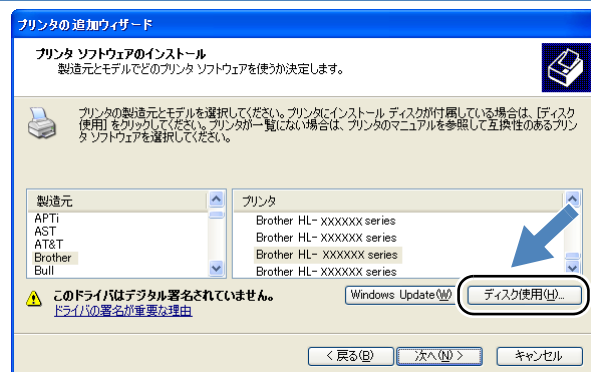
[次へ]をクリックします。

指定した URL に接続されます。

- 必要なプリンタドライバがインストールされている場合
  適したプリンタドライバがコンピュータにインストールされている場合は、そのドライバが自動的に使用されます。
  すでにインストールされているプリンタドライバを使用するかどうかを選択し［次へ］をクリックします。
  手順 12 に進んでください。

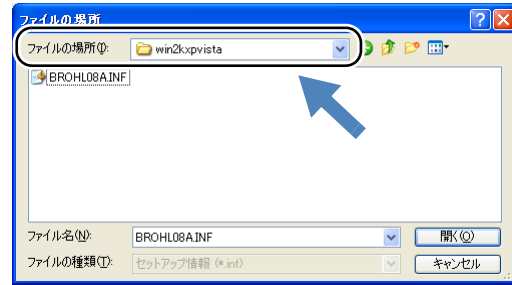
- 必要なプリンタドライバがインストールされていない場合
  IPP 印刷プロトコルのメリットの 1 つは、通信先のプリンタのモデル名が自動的に確定されることです。プリンタとの通信が確立すると、自動的にプリンタのモデル名が表示されるため、使用するプリンタドライバの種類を Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 に対して指定する必要はありません。
  プリンタドライバがインストールされていない場合は、プリンタの追加ウィザードのプリンタ選択画面が表示されます。手順 6 に進んでください。

[ディスク使用]をクリックします。

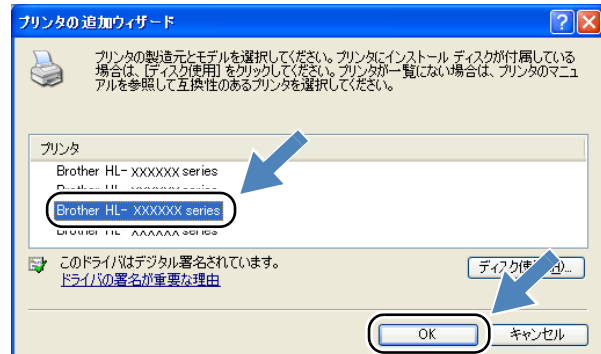
メモ

デジタル署名の警告メッセージが表示された場合は、［続行］（Windows® 2000 の場合は［はい］）をクリックし、インストールを続けます。

付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットし、[参照]をクリックします。

8 「ファイルの場所」からCD-ROMドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択します。

X:install￥jpn￥PCL￥win2kxpvista
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

9 [開く]をクリックします。

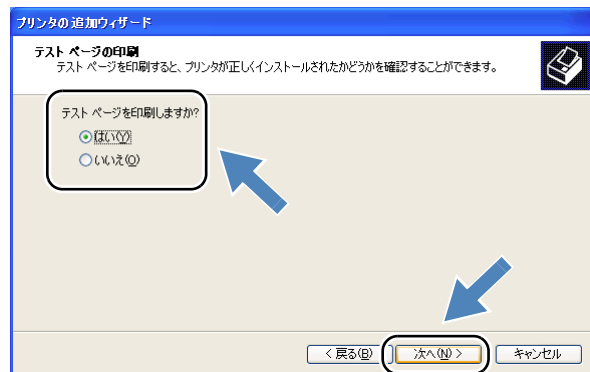
10 [OK]をクリックします。

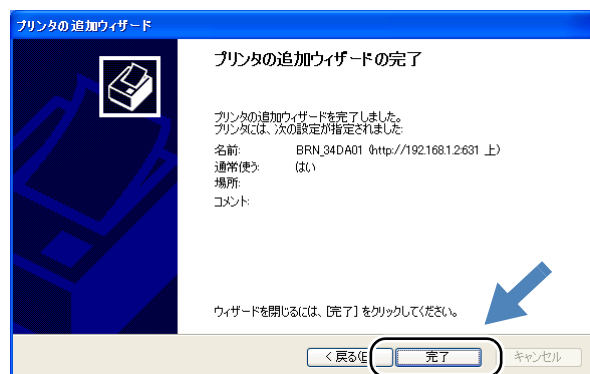
11 プリンタのリストから本製品を選択し、[OK]をクリックします。

メモ

- コンピュータがインターネットに接続されている場合は、［Windows Update］をクリックし、Microsoft 社のホームページからプリンタドライバを直接ダウンロードすることもできます。
- すでにプリンタドライバがインストールされている場合は、現在のドライバを使うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
  「現在のドライバを使う（推奨）」を選択し、［次へ］をクリックします。

12 複数のプリンタドライバがインストールされている場合は、本製品を通常使うプリンタとして設定するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

テストページを印刷するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

- [はい] を選んだ場合は、正しく印刷されたかを確認してください。
- [いいえ] を選んだ場合は、あとでテスト印刷を行い、正しく印刷されるかを確認してください。

[完了]をクリックします。

これで、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003 のインターネット印刷機能の設定は完了しました。
このコンピュータを経由してインターネット印刷ができます。

別の URL を指定する

URL 欄には、下記の入力が可能です。

メモ

［詳細］タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

http://printer_ip_address:631/ipp
推奨 URL です。

http://printer_ip_address:631/ipp/port1
HPJetdirect 互換の URL です。

http://printer_ip_address:631/
URL の詳細を忘れた場合は、上記のテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

［printer_ip_address］は、ご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名を入力します。

例）　http://192.168.1.2/
　　　http://BRN123456765432/

第 5 章
セキュリティ機能

セキュリティ機能を使う

コンピュータをネットワークに接続していると、悪意のある第三者によって不正にネットワークにアクセスされ、データや機密情報が読み取られてしまうなどの危険性があります。
本製品は、最新のネットワークセキュリティおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。
この章では、本製品がサポートしているセキュリティプロトコルやその設定方法について説明します。

概要

セキュリティ用語

証明機関（CA）
電子的な身分証明書（X.509 証明書）を発行し、証明書内の公開鍵などのデータと、その所有者の結び付きを保証する機関です。

CSR（証明書署名要求）
証明書の発行を申請するために、証明機関（CA）に送信するメッセージです。CSR には、申請者を識別する情報、申請者が作成した公開鍵、申請者のデジタル署名が含まれます。

証明書
公開鍵と本人を結び付ける情報です。証明書を用いて、個人に所属する公開鍵を確認することができます。形式は、x.509 規格で定義されています。

デジタル署名
データの受信者がデータの正当性を確認するための情報です。暗号アルゴリズムで計算される値で、データオブジェクトに付加されます。

公開鍵暗号システム
秘密鍵と公開鍵で一対の鍵になります。暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、それぞれ異なるキーを用いる暗号方法です。

共有鍵暗号システム
暗号化するための公開鍵と復号化するための秘密鍵に、同じキーを用いる暗号方法です。

セキュリティプロトコル

本製品は、以下のセキュリティプロトコルに対応しています。

メモ

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」を参照してください。P.5-4

SSL（Secure Socket Layer）/ TLS（Transport Layer Security）

これらのセキュリティ通信プロトコルは、データを暗号化してセキュリティを強化します。

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）で SSL を用いるインターネットプロトコルです。

IPPS

インターネット印刷プロトコル（IPP バージョン 1.0）で SSL を用いる印刷プロトコルです。

SNMPv3

ネットワーク機器を安全に管理するため、ユーザー認証とデータの暗号化を行います。

E メール通達のセキュリティを設定する

本製品は、以下の E メール通達のセキュリティに対応しています。

メモ

プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」を参照してください。P.5-4

POP before SMTP（PbS）

クライアントから E メールを送信する際のユーザー認証方法です。クライアントは、E メールを送信する前に POP3 サーバにアクセスすることによって、SMTP サーバを使用する許可を得ます。

SMTP-AUTH（SMTP 認証）

クライアントから E メールを送信する際のユーザー認証方法です。SMTP-AUTH は、SMTP（インターネット E メール送信プロトコル）を拡張し、送信者の身元を確認する認証方法を取り入れたものです。

APOP

APOP は、POP3（インターネット E メール受信プロトコル）を拡張し、クライアントが E メールを受信するときに用いるパスワードを暗号化する認証方法を取り入れたものです。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

プロトコルを設定する

ウェブブラウザを使って、各プロトコルおよびセキュリティ方法を有効または無効にできます。

メモ

- Windows® の場合は Microsoft® Internet Explorer® 6.0 以降または Firefox 1.0 以降、Macintosh の場合は Safari1.3 以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScript およびクッキーを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。

ウェブブラウザを起動します。

ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/を入力します。

（[ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例） 本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
ブラウザに http://192.168.1.2/ と入力します。

メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。
ノード名は、ネットワーク設定一覧に表示されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

3 **[ネットワーク設定]をクリックします。**

[ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

5 **[プロトコル設定]をクリックします。**

必要に応じてプロトコルの設定を変更します。

設定を変更した場合は、[OK]をクリックします。

本製品の電源を入れ直した後に、設定が変更されます。

ネットワークプリンタを安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するには、セキュリティプロトコルと合わせて、以下の管理ソフトウェアを使用する必要があります。

- ウェブブラウザ P.5-5
- BRAdmin Professional 3 P.5-8

ウェブブラウザを使って安全に管理する

ネットワークプリンタを安全に管理するためには、HTTPS と SNMPv3 の使用をおすすめします。
HTTPS プロトコルを使用するには、以下のプリンタ設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵を本製品にインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.5-16 を参照してください。
- HTTPS プロトコルを有効にする必要があります。HTTPS プロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、［プロトコル設定］の［Web Based Management（Web Server）］の［詳細設定］で、「SSL 通信を使う（ポート 443）」を有効にします。本製品の［プロトコル設定］ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」P.5-4 を参照してください。

メモ

- Windows® の場合は Microsoft® Internet Explorer® 6.0 以降または Firefox 1.0 以降、Macintosh の場合は Safari1.3 以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScript およびクッキーを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。
- Telnet、FTP、TFTP プロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.5-4 を参照してください。

1 **ウェブブラウザを起動します。**

2 **ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://Common_Name/を入力します。**

"http" の後に "s" を付け、"https://" と入力してください。
（[Common_Name］は、IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.5-16 を参照してください。）

例） https://192.168.1.2/（「Common_Name」が本製品の IP アドレスである場合）

メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。
ノード名は、ネットワーク設定一覧に表示されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

3 HTTPSを使って本製品にアクセスすることができます。

HTTPS プロトコルを使用するときは、SNMPv3 を合わせて使用することをおすすめします。
SNMPv3 を使用する場合は以降の手順に従ってください。

メモ

SNMP 設定は BRAdmin Professional 3 でも変更できます。

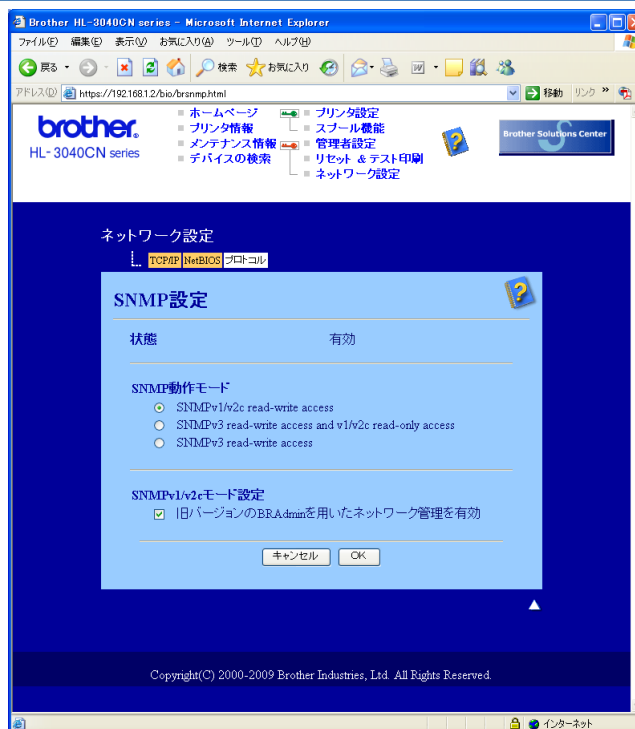
4 [ネットワーク設定]をクリックします。

5 [ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

6 [プロトコル設定]をクリックします。

7 必ずSNMP設定を有効にし、SNMPの[詳細設定]をクリックします。

右の画面から SNMP 設定を設定できます。

SNMP 動作モードは次の 3 種類です。

SNMPv3 read-write access

このモードでは、SNMP プロトコルのバージョン 3 が使用されます。安全に本製品を管理する場合は、このモードを選択してください。

メモ

「SNMPv3 read-write access」を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 本製品は、BRAdmin Professional 3 またはウェブブラウザでのみ管理できます。
- SSL 通信（HTTPS）の使用をおすすめします。
- BRAdmin Professional 3 以外では、SNMPv1/v2c を使用するすべてのアプリケーションが制限されます。SNMPv1/v2c で動作するアプリケーションを使用するには、「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」または「SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access

このモードでは、SNMP プロトコルのバージョン 3 の読み書きと、バージョン 1 および 2c の読み取りが使用されます。

メモ

「SNMPv3 read-write access and v1/v2c read-only access」を使用する場合は、設定変更にバージョン 3 の認証が必要となるため、BRAdmin Light などのバージョン 1 および 2c 用の設定機能しか持たないブラザーアプリケーションが正しく動作しません。すべてのブラザーアプリケーションを使用する場合は、「SNMPv1/v2c read-write access」を使用してください。

SNMPv1/v2c read-write access

このモードでは、SNMP プロトコルのバージョン 1 および 2c が使用されます。
すべてのブラザーアプリケーションが使用できます。ただし、ユーザーが認証されず、データが暗号化されないため、安全ではありません。

メモ

詳細については、ウェブブラウザの SNMP 設定のヘルプ を参照してください。

BRAdmin Professional 3を使って安全に管理する(Windows®のみ)

BRAdmin Professional 3 を使ってネットワークプリンタを安全に管理するには、次の点に従ってください。

- BRAdmin Professional 3 の最新バージョンをご使用されることをおすすめします。BRAdmin Professional 3 は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）からダウンロードできます。旧バージョンの BRAdmin Professional を使用してブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティ上安全ではありません。
- 旧バージョン※1 の BRAdmin からご使用のプリンタへアクセスすることを避けたい場合は、ウェブブラウザを使って「プロトコル設定」画面の［SNMP］の［詳細設定］から、旧バージョン※1 の BRAdmin からのアクセスを無効にする必要があります。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」P.5-5 を参照してください。
- Telnet、FTP、TFTP を無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティ上安全ではありません。プロトコルの設定方法については、「プロトコルを設定する」P.5-4 を参照してください。
- BRAdmin Professional 3 とウェブブラウザを同時に使用する場合は、HTTPS プロトコルでウェブブラウザをお使いください。「ウェブブラウザを使って安全に管理する」P.5-5 を参照してください。
- 従来のプリントサーバ※2 と新しいプリントサーバが混在したグループを BRAdmin Professional 3 で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをおすすめします。これによって本製品が安全に管理されます。

※1　Ver. 2.80 以前の BRAdmin Professional 3、Ver. 1.10 以前の Macintosh 用 BRAdmin Light
※2　NC-2000 シリーズ、NC-2100p、NC-3100、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-120w、NC-130h、CN-140w、NC-8100h、NC-9100h、NC-7100w、NC-7200w、NC-2200w

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用する

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用し、本製品の機能を利用制限することで、セキュリティを高めたり、印刷コストを抑えたりすることができます。
セキュリティ機能ロックでユーザーにパスワードを設定すると、一部またはすべての機能を利用するときにパスワード認証が必要になります。また、ユーザーごとに印刷枚数を制限することもできます。この機能によって、権限を与えたユーザーのみが本製品の機能を利用できるようになります。

ウェブブラウザを使用し、セキュリティ機能ロックの以下の機能を設定できます。

- PC プリント※1
- カラープリント
- 枚数制限
- ページカウンタ（確認のみ）

※1　コンピュータのログインユーザー名を登録した場合は、パスワードを入力せずに PC プリントを制限できます。詳細は、「ログインユーザー名による PC プリント制限」P.5-11 を参照してください。

ウェブブラウザを使ってセキュリティ機能ロック 2.0 を設定する

基本設定

ウェブブラウザを起動します。

ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/を入力します。

（[ip_address］はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）　本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
　　　ブラウザに http://192.168.1.2/ と入力します。

メモ

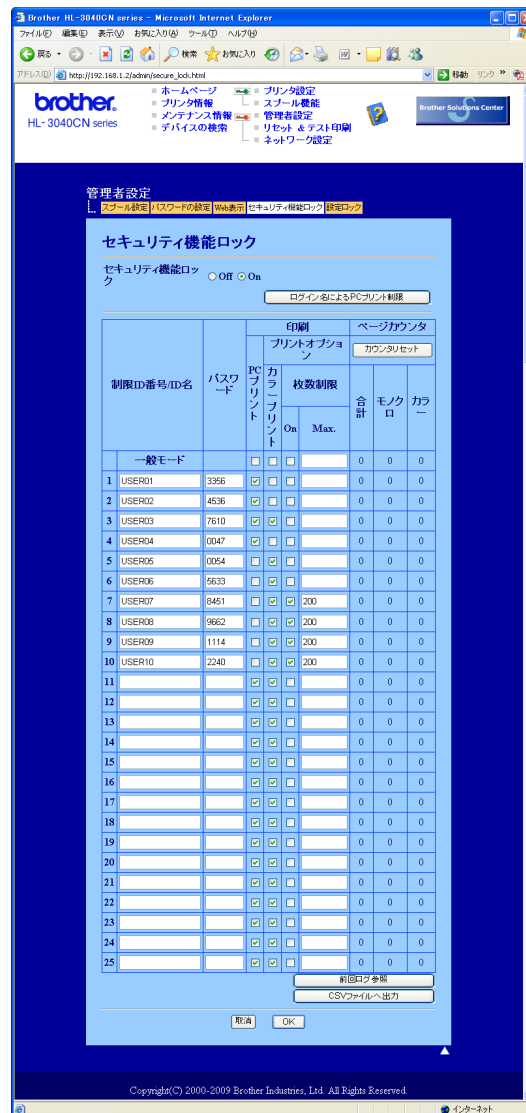
hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。
ノード名は、ネットワーク設定一覧に表示されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

[管理者設定]をクリックします。

[ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

5 [セキュリティ機能ロック]をクリックします。

6 「セキュリティ機能ロック」から[On]を選択します。

7 「制限ID番号/ID名」欄にグループ名またはユーザー名を半角英数15文字以内で入力します。次に「パスワード」欄に4桁のパスワードを入力します。

8 「印刷」欄の機能制限したい項目のチェックボックスのチェックをはずします。

印刷枚数を制限したい場合は、「印刷枚数」の「On」欄のチェックボックスをチェックし、「Max.」欄に最大印刷可能枚数を入力します。

9 [OK]をクリックします。

10 コンピュータのログインユーザー名でPCプリントを制限したい場合は、[ログイン名によるPCプリント制限]をクリックし、設定してください。P.5-11

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

ログインユーザー名による PC プリント制限

この設定によって、PC プリント時にコンピュータのログインユーザー名で認証を行います。
パスワードを入力せずに、登録したログインユーザー名のコンピュータからの印刷データを印刷できます。

「セキュリティ機能ロック」画面で[ログイン名によるPCプリント制限]をクリックします。

「PC プリント制限」から[On]を選択します。

「ログイン名」欄にコンピュータのログインユーザー名を入力します。

次に「基本設定」の手順 7 で設定するための制限 ID 番号を「制限 ID 番号」欄から選択します。

[OK]をクリックします。

メモ

- 1 グループ単位で PC プリントを制限したい場合は、各ログインユーザー名で同じ制限 ID 番号を選択してください。
- PC プリント時のユーザー認証にログインユーザー名を使用する場合は、プリンタドライバの「ユーザー認証設定」で「ログインユーザー名を使う」チェックボックスをチェックする必要があります。詳しい情報は、「ユーザーズガイド～基本編～」を参照してください。

一般モードの設定

一般ユーザーが利用できる機能を制限するためには、一般モードを設定します。
一般ユーザーがこの機能で利用可能に設定された機能を使用する場合は、パスワードを入力する必要はありません。

「セキュリティ機能ロック」画面で「一般モード」欄の機能制限したい項目のチェックボックスのチェックをはずします。

[OK]をクリックします。

その他の機能

セキュリティ機能ロック 2.0 では、その他に以下の機能を設定できます。

● カウンタリセット

[カウンタリセット] をクリックすると、すべてのページカウンタをリセットできます。

● CSV ファイルへ出力

[CSV ファイルへ出力] をクリックすると、制限 ID 番号 /ID 名と、現在のページカウンタ、リセット前のページカウンタを CSV ファイル形式で出力できます。

● 前回ログ参照

カウンタがリセットされた後でも、リセット前のページカウンタが記憶されています。
[前回ログ参照] をクリックすると、リセット前のページカウンタを参照できます。

メモ

セキュリティ機能ロック 2.0 は BRAdmin Professional 3 を使用しても設定できます。
BRAdmin Professional 3 は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。
BRAdmin Professional 3 は、Windows® でのみ利用可能です。

IPPS を使って文書を安全に印刷する

文書を暗号化し、インターネットを経由して安全に印刷するには、IPPS プロトコルを利用します。

メモ

- IPPS を使用した通信では、本製品への不正アクセスを防止することはできません。
- IPPS は、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® で利用できます。

IPPS プロトコルを使用するには、以下のプリンタ設定が必要です。

- 証明書と秘密鍵をプリンタにインストールする必要があります。証明書と秘密鍵のインストール方法については、「証明書を作成してインストールする」P.5-16 を参照してください。
- IPPS プロトコルを有効にする必要があります。IPPS プロトコルを有効にするには、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、［プロトコル設定］の［IPP］の［詳細設定］で、「SSL 通信を使う（ポート 443）」を有効にします。本製品の［プロトコル設定］ページにアクセスする方法については、「プロトコルを設定する」P.5-4 を参照してください。

IPPS 印刷の基本的な手順は、IPP 印刷と同じです。詳細については、「第 4 章 インターネット印刷機能を設定する」P.4-2 を参照してください。

別の URL を指定する

URL 欄には、下記の入力が可能です。

メモ

［詳細］タブをクリックしても本製品のデータは表示されません。

https://Common_Name/ipp

推奨 URL です。

https://Common_Name/ipp/port1

HPJetdirect 用の URL です。

https://Common_Name/

URL の詳細を忘れた場合は、上記のテキストだけでも本製品に受け付けられ、データが処理されます。

"http" の後に "s" を付け、"https://" と入力してください。
［Common_Name］（コモンネーム）は、IP アドレス、ホスト名、ドメイン名などの証明書に割り当てたコモンネームを入力します。証明書にコモンネームを割り当てる方法については、「証明書を作成してインストールする」P.5-16 を参照してください。

例）　https://192.168.1.2/（「コモンネーム」が本製品の IP アドレスである場合）

ユーザー認証付 E メール通達を使用する

ユーザー認証を必要とする SMTP サーバを経由して、E メール通達機能を使用するには、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用する必要があります。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバに不正アクセスすることを防ぎます。ウェブブラウザおよび BRAdmin Professional 3 を使用して設定することができます。

メモ

POP3/SMTP 認証の設定を E メールサーバのいずれかに合わせる必要があります。使用前の設定については、ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。E メール通達機能は、ウェブブラウザから本製品にアクセスし、[E メール通達（エラー情報）] から設定してください。

ウェブブラウザを使って POP3/SMTP を設定する

1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/を入力します。

（[ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）　本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
ブラウザに http://192.168.1.2/ と入力します。

メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。
ノード名は、ネットワーク設定一覧に表示されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

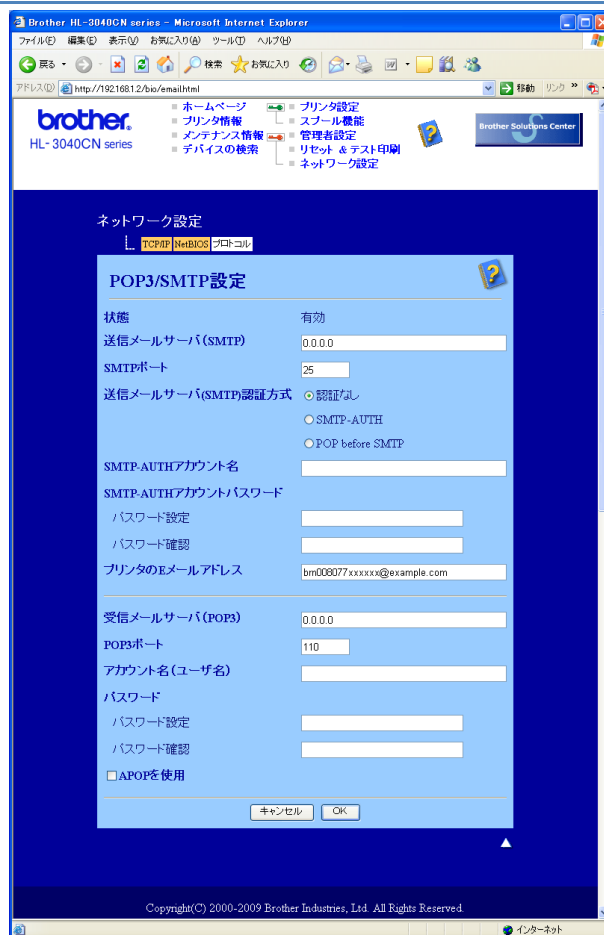
3 [ネットワーク設定]をクリックします。

4 [ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は “admin” で、パスワードは、“access” に設定されています。

5 [プロトコル設定]をクリックします。

6 POP3/SMTP設定を必ず有効にし、[POP3/SMTP詳細設定]をクリックします。

POP3/SMTPの設定を変更します。

メモ

- ウェブブラウザで SMTP ポート番号も変更できます。これは、ご使用の ISP（インターネットサービスプロバイダ）が「Outbound Port 25 Blocking （OP25B）」サービスを実施している場合に便利です。
  SMTP ポート番号を ISP が SMTP サーバで使用している特有の番号（例：ポート 587）に変更することで、SMTP サーバ経由で E メールを送信できるようになります。SMTP サーバ認証を有効にする場合は、「送信メールサーバ（SMTP）認証方式」の「SMTP-AUTH」を選択する必要があります。
- 「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、「SMTP-AUTH」を選択することをおすすめします。
- 「送信メールサーバ（SMTP）認証方式」を「POP before SMTP」に設定すると、「受信メールサーバ（POP3）」の設定が必要となります。また、「APOP を使用」をチェックして、APOP 方式を使用することもできます。
- 詳細については、ウェブブラウザの POP/SNMP 設定のヘルプ を参照してください。
- 設定後にテストメールを送信し、E メール設定が正しいことを確認してください。

8

設定を変更した場合は、[OK]をクリックします。

テストメール送信設定画面が表示されます。

現在の設定をテストしたい場合は、画面上の指示に従ってください。

証明書を作成してインストールする

本製品では、証明書と該当する秘密鍵を設定することによって、SSL/TLS 通信を行うことができます。本製品は、自己署名証明書と証明機関（CA）発行の証明書の 2 種類の証明書に対応しています。

● 自己署名証明書を使用する

本製品自ら証明書を発行します。証明機関（CA）から証明書を取得することなく、この証明書を用いて、簡単に SSL/TLS 通信を行うことができます。「自己署名証明書を作成してインストールする」P.5-18 を参照してください。

● 証明機関（CA）発行の証明書を使用する

既に証明機関（CA）を持っている場合、または外部の信頼された証明機関（CA）が発行した証明書を使用したい場合は、次の 2 つのインストール方法があります。

- 本製品から CSR（証明書署名要求）を送信するには、「CSR を作成してインストールする」P.5-29 を参照してください。
- 証明書と秘密鍵をインポートするには、「証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする」P.5-31 を参照してください。

メモ

- SSL/TLS 通信を行う場合は、あらかじめシステム管理者にお問い合わせいただくことをおすすめします。
- 本製品は、インストールした、または以前にインポートした一対の証明書と秘密鍵のみを保存します。新しいものをインストールすると、古い証明書と秘密鍵に上書きされます。
- 本製品を工場出荷時の設定にリセットすると、インストールした証明書と秘密鍵は削除されます。本製品をリセットした後も、同じ証明書と秘密鍵を使用したい場合は、リセットする前にエクスポートしておいてください。「証明書と秘密鍵をエクスポートする」P.5-32 を参照してください。

証明書設定画面を表示する

証明書機能は、ウェブブラウザのみで設定できます。ウェブブラウザを使用して証明書設定画面を表示する場合は、次の手順に従ってください。

1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザのアドレス入力欄に http://ip_address/を入力します。

（[ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレス）

例）　本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
　　　ブラウザに http://192.168.1.2/ と入力します。

メモ

hosts ファイルを編集した場合や、DNS（ドメインネームシステム）を使用している場合は、IP アドレスではなく、本製品に割り当てた名前を入力してもアクセスできます。本製品は、TCP/IP および NetBIOS をサポートしているため、本製品のノード名を入力することもできます。
ノード名は、ネットワーク設定一覧に表示されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

[ネットワーク設定]をクリックします。

[ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

お買い上げ時のユーザ名は“admin”で、パスワードは、“access”に設定されています。

[証明書設定]をクリックします。

右の画面から証明書を設定できます。

メモ

- リンクされていないグレー表示の機能は、利用できません。
- 詳細については、ウェブブラウザの証明書設定ページのヘルプ を参照してください。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

自己署名証明書を作成してインストールする

自己署名証明書を作成してプリンタにインストールする

証明書設定画面の[自己署名証明書の作成]をクリックします。

コモンネームと有効期限を入力して、[OK]をクリックします。

「自己署名証明書を作成しました」と表示されます。

メモ

- コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ノード名が表示されます。
- IPPS または HTTPS プロトコルを使用している場合に、自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URL に入力すると警告画面が表示されます。

3 **自己署名証明書が正しく作成されました。**

4 **他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従います。**

5 **設定を有効にするために、プリンタを再起動します。**

6 **自己署名証明書がプリンタのメモリに保存されました。**

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも自己署名証明書をインストールする必要があります。次の「プリンタの自己署名証明書をコンピュータにインストールする」P.5-19 に進んでください。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

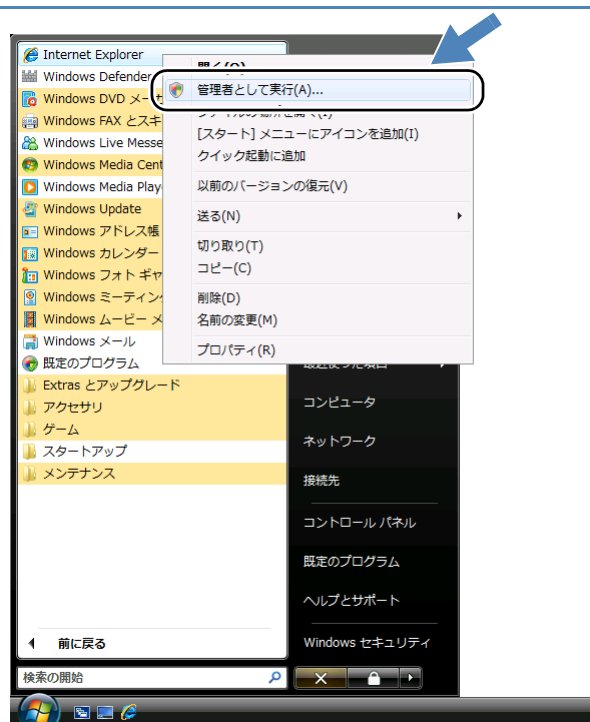
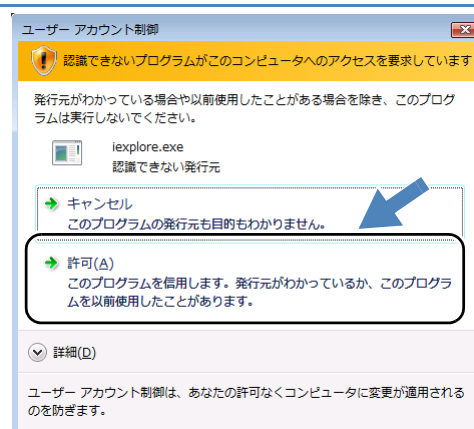
プリンタの自己署名証明書をコンピュータにインストールする

メモ

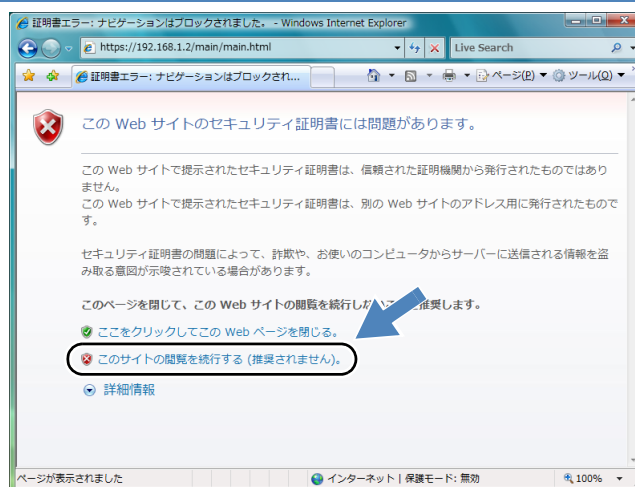
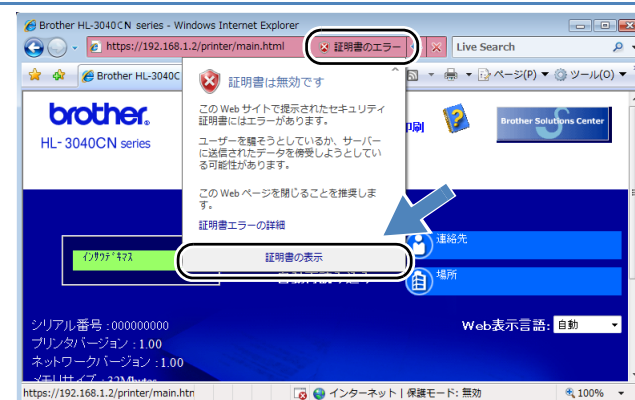
以下の手順は、Microsoft® Internet Explorer® を例にしています。他のウェブブラウザを使用している場合は、ウェブブラウザのヘルプに従ってください。

● 管理者アカウントで Windows Vista® をご使用の場合

[スタート]メニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

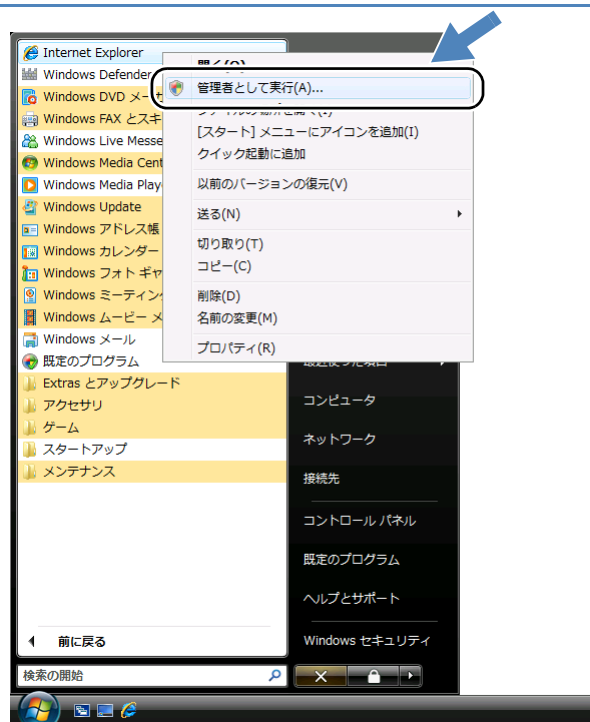
[Internet Explorer]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

この画面が表示されたら、[許可]をクリックします。

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://printer_ip_address/ を入力します。

"http" の後に "s" を付け、"https://" と入力してください。
（[printer_ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。

[証明書のエラー]をクリックし、次に[証明書の表示]をクリックします。

P.5-26 の手順4に進んでください。

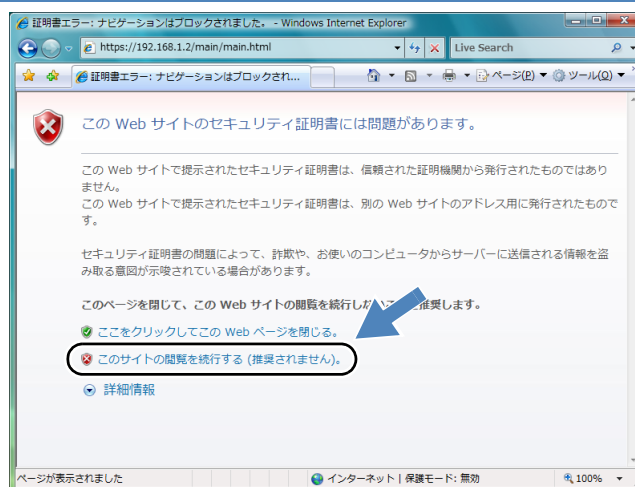
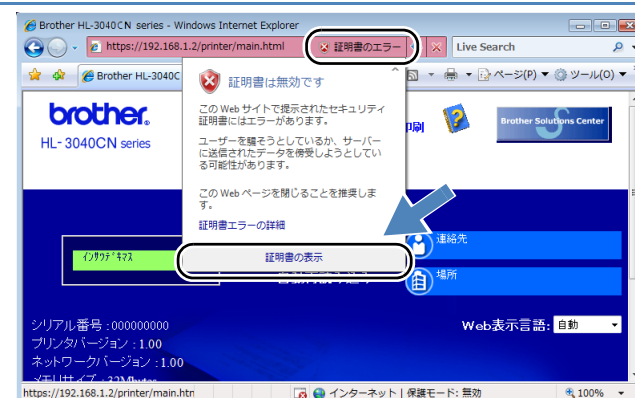
管理者ではないアカウントで Windows Vista® をご使用の場合

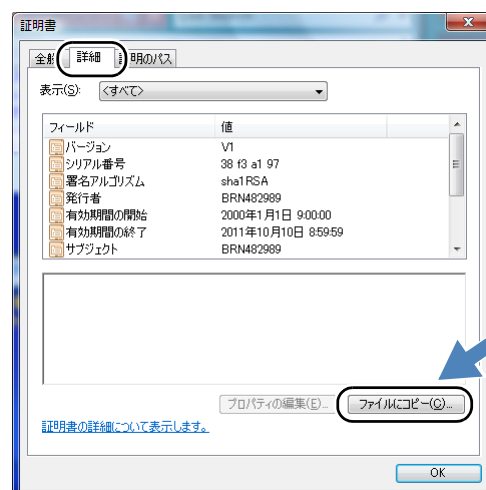
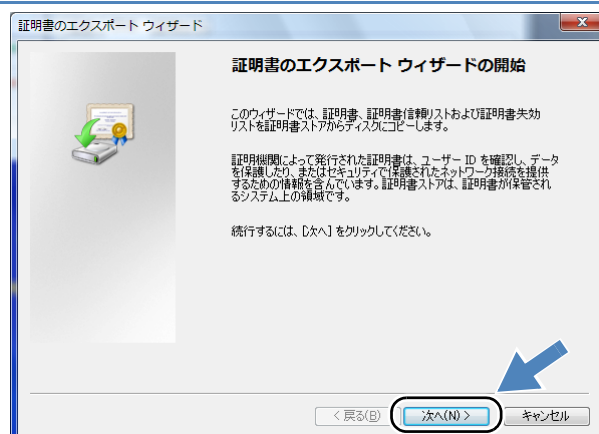
[スタート]メニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

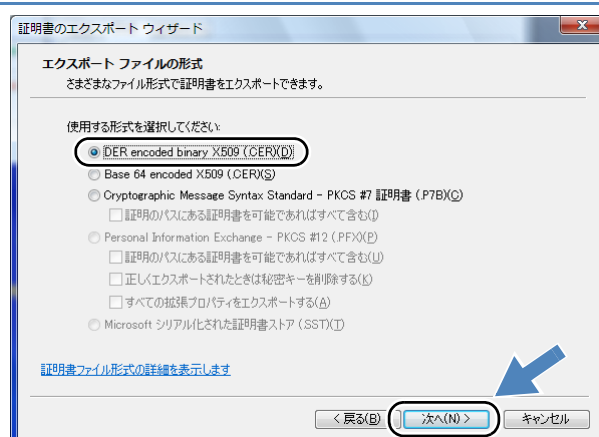
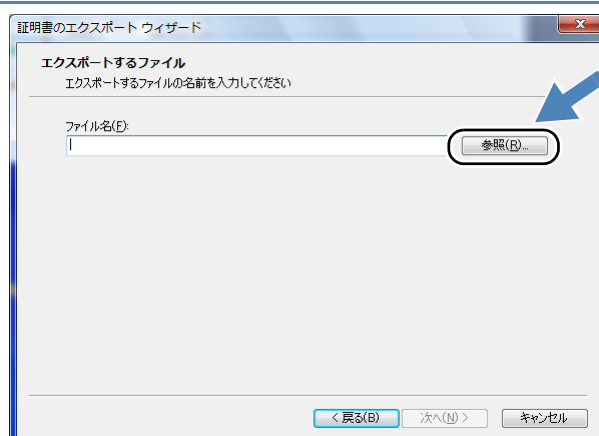
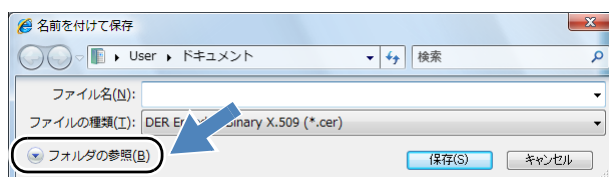
[Internet Explorer]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

この画面が表示されたら、管理者アカウントを選択し、管理者アカウントのパスワードを入力して、[OK]をクリックします。

ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://printer_ip_address/ を入力します。

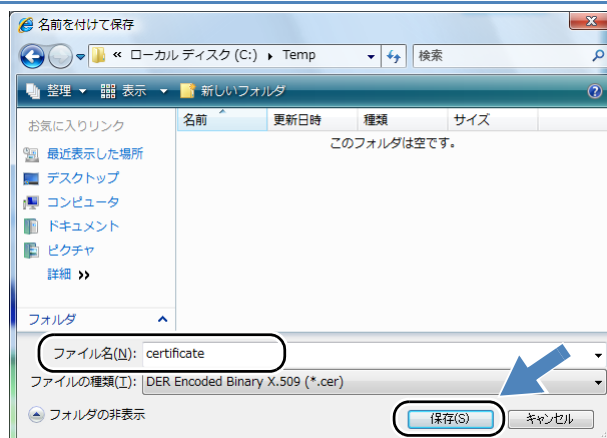
"http" の後に "s" を付け、"https://" と入力してください。
（[printer_ip_address] はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

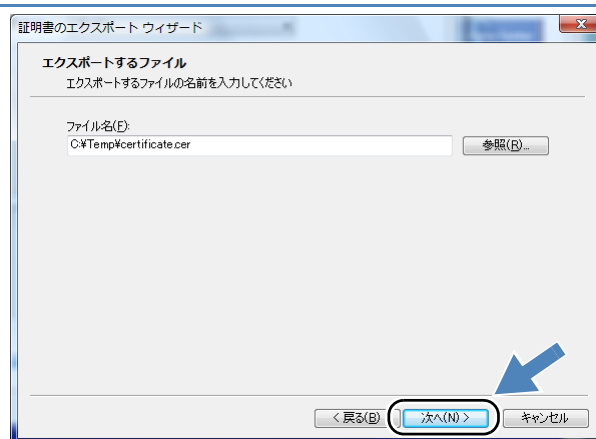
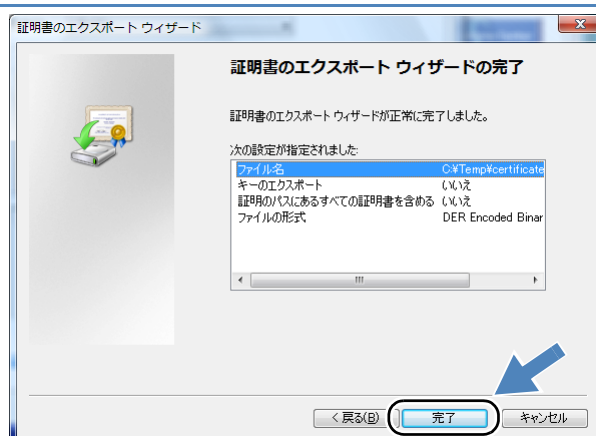
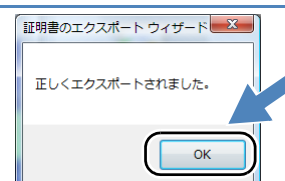
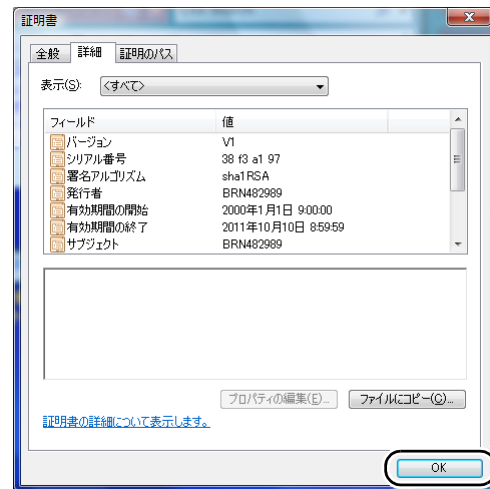
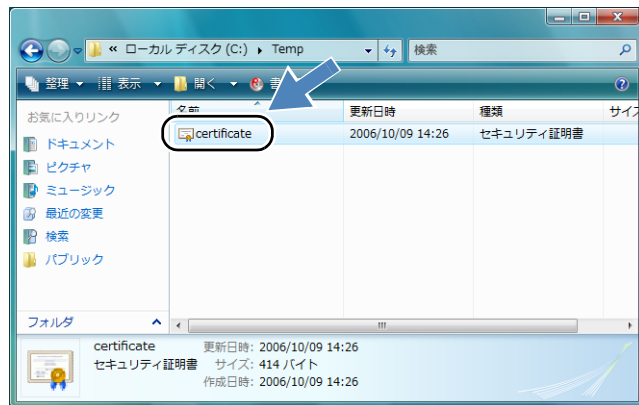
次に、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。」をクリックします。

[証明書のエラー]をクリックし、次に[証明書の表示]をクリックします。

6

[詳細]タブを選択し、[ファイルにコピー]をクリックします。

[次へ]をクリックします。

8 **「DER encoded binary X.509 (.CER)」が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。**

9 **[参照]をクリックします。**

10 **[フォルダの参照]をクリックします。**

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

11 **証明書ファイルを保存したいフォルダを選択し、ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。**

メモ

デスクトップを選択した場合は、選択した管理者アカウントのデスクトップに保存されます。

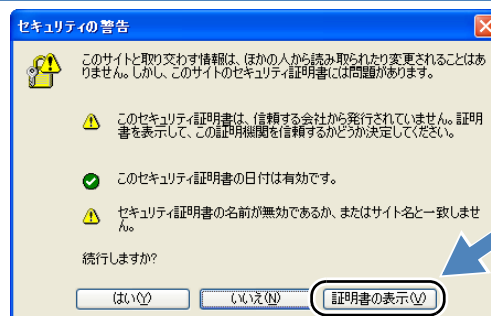
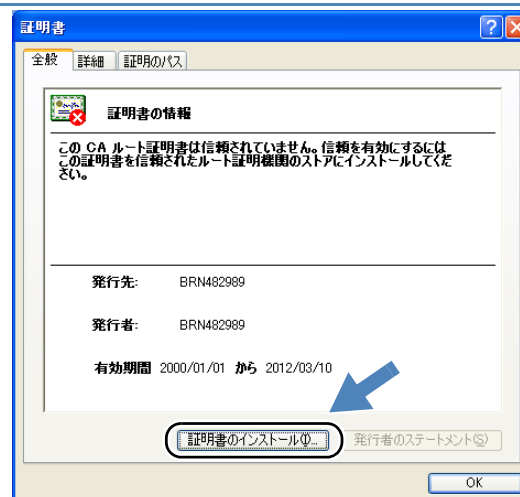
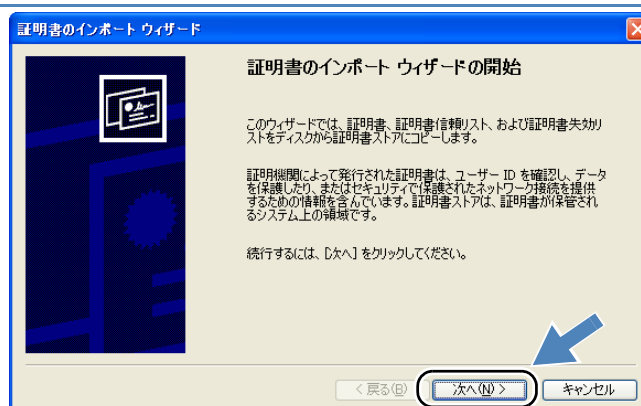
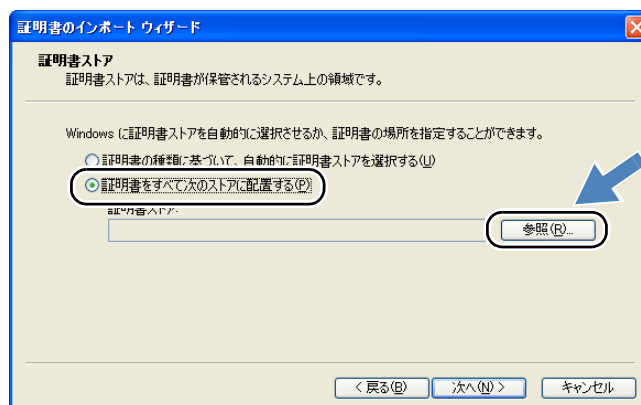
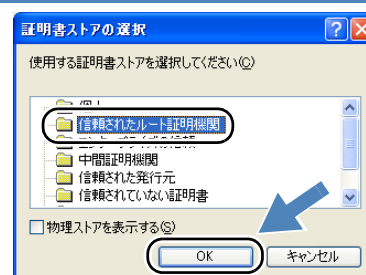
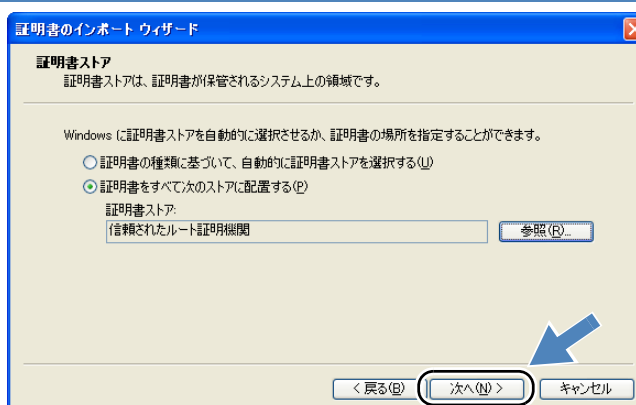
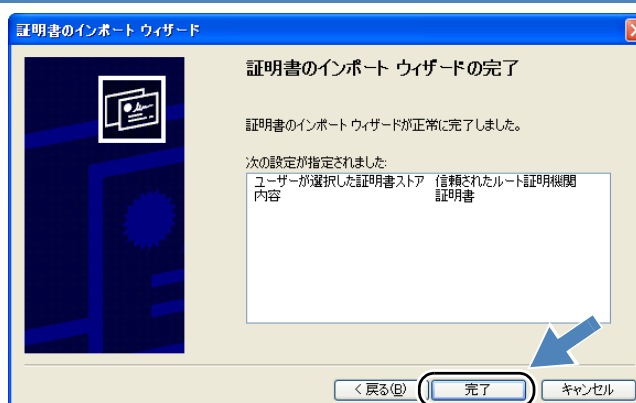
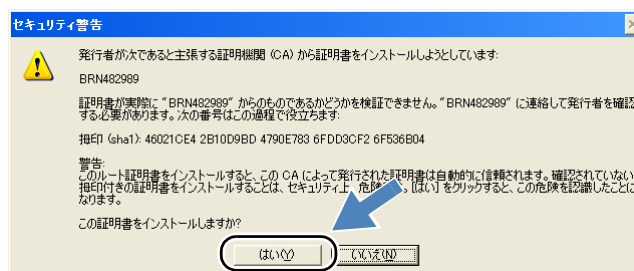
12 **[次へ]をクリックします。**

13 **[完了]をクリックします。**

14 **[OK]をクリックします。**

15 [OK]をクリックします。

16 手順11で証明書ファイルを保存したフォルダを開き、証明書ファイルをダブルクリックします。

17 P.5-26 の手順4に進んでください。

Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008 をご使用の場合

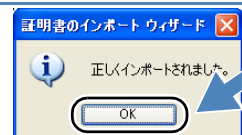
1 ウェブブラウザを起動します。

2 ウェブブラウザのアドレス入力欄に https://printer_ip_address/を入力します。

"http" の後に "s" を付け、"https://" と入力してください。
（[printer_ip_address］はご使用になるプリンタの IP アドレスまたはノード名）

3 [証明書の表示]をクリックします。

4 [全般]タブで[証明書のインストール]をクリックします。

5 [次へ]をクリックします。

6 「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択し、[参照]をクリックします。

7 「信頼されたルート証明機関」を選択し、[OK]をクリックします。

8 [次へ]をクリックします。

9 [完了]をクリックします。

10 **フィンガープリント(拇印プリント)が正しければ、[はい]をクリックします。**

メモ

フィンガープリント（拇印プリント）は、ネットワーク設定一覧で印刷されます。ネットワーク設定一覧の印刷方法については、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

11 **[OK]をクリックします。**

12 **自己署名証明書がコンピュータにインストールされ、SSL/TLS 通信が可能になりました。**

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

CSR を作成してインストールする

CSR を作成する

証明書設定画面の[CSRの作成]をクリックします。

コモンネームと組織などの情報を入力して、[OK]をクリックします。

メモ

- CSR を作成する前に、証明機関（CA）発行のルート証明書を、お使いのコンピュータにインストールすることをおすすめします。
- コモンネームは、64 バイト未満にしてください。SSL/TLS 通信を経由して本製品にアクセスする際に用いる IP アドレス、ノード名、ドメイン名などの識別子を入力します。お買い上げ時の設定として、ノード名が表示されます。コモンネームは必須入力項目です。
- 自己署名証明書に用いたコモンネームと異なる名前を URL に入力すると、警告画面が表示されます。
- 組織、部署、市、県の長さは、64 バイト未満にしてください。
- 国 / 地域は、二文字からなる ISO 3166 国コードを使用してください。

3 **CSR の内容が表示されたら[保存]をクリックし、CSR ファイルをコンピュータに保存します。**

CSRが作成されました。

メモ

- CSR を証明機関（CA）に送信する方法については、証明機関（CA）の方針に従ってください。
- Windows Server® 2003/2008 の「エンタープライズのルート CA」をご使用の場合は、証明書の作成時に「証明書テンプレート」の「Web サーバー」を選択することをおすすめします。
- 詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）を参照してください。

証明書をプリンタにインストールする

証明機関（CA）から証明書を受け取ったら、以下の手順に従って本製品にインストールしてください。

メモ

本製品の CSR で発行された証明書以外はインストールできません。

1 **証明書設定画面の[証明書のインストール]をクリックします。**

2 **証明機関(CA)が発行した証明書のファイルを指定し、[OK]をクリックします。**

3 **証明書が正しく作成されました。**

4 **他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従います。**

5 **設定を有効にするために、プリンタを再起動します。**

6 **証明書がプリンタにインストールされました。**

SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をインポート / エクスポートする

証明書と秘密鍵をインポートする

1. **証明書設定画面の[証明書と秘密鍵のインポート]をクリックします。**
2. **インポートしたいファイルを指定します。**
3. **ファイルが暗号化されている場合は、パスワードを入力し、[OK]をクリックします。**
4. **証明書と秘密鍵が正しく作成されました。**
5. **他の証明設定を作成する場合は、画面の指示に従います。**
6. **設定を有効にするために、プリンタを再起動します。**
7. **証明書と秘密鍵がプリンタにインポートされました。**

   SSL/TLS 通信を行うには、ご使用のコンピュータにも証明機関（CA）発行のルート証明書をインストールする必要があります。インストールについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

証明書と秘密鍵をエクスポートする

1 証明書設定画面の[証明書と秘密鍵のエクスポート]をクリックします。

2 ファイルを暗号化したい場合は、パスワードを入力し、[OK]をクリックします。

メモ

パスワードが空白のままだと、暗号化されません。

3 確認のため、再度パスワードを入力し、[OK]をクリックします。

4 ファイルを保存したい場所を指定します。

5 証明書と秘密鍵がコンピュータにエクスポートされました。

メモ

エクスポートしたファイルをインポートすることもできます。

第 6 章
困ったときは

困ったときは（トラブル対処方法）

概要

本製品を使用する上で、発生する可能性のある問題とその解決方法について説明しています。
問題が解決しない場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）
（**http://solutions.brother.co.jp/**）を参照してください。

問題の種類を以下の 5 つに分けています。該当する問題のページを参照してください。

- 一般的な問題P.6-2
- 接続と設定の問題P.6-3
- 印刷の問題P.6-5
- プロトコル固有の問題P.6-7
- ファイアウォールの問題P.6-9

一般的な問題

CD-ROM を挿入しても自動的に開始しない（Windows® のみ）

ご使用のコンピュータが自動起動に対応していないと、CD-ROM を挿入した後にメニューが自動的に表示されません。この場合は、[マイコンピュータ※1] から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、画面を表示させてください。
※ 1　Windows Vista® の場合は［コンピュータ］です。

本製品のネットワーク設定をお買い上げ時の設定にリセットする方法

「ネットワーク設定をリセットする」を実行します。P.2-16

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

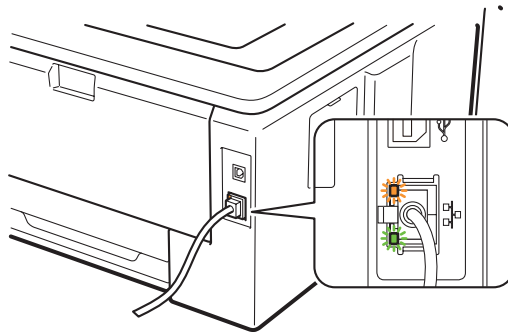
インストール中に本製品が見つからない場合

ネットワークプリントソフトウェアのインストール中、または Windows® のブラザープリンタドライバから本製品が見つからない場合、Macintosh 簡易ネットワーク設定機能で本製品が見つからない場合は、以下の手順で確認します。

本製品の電源スイッチがONで、印刷できる状態であることを確認します。

ネットワーク設定一覧は印刷できるP.2-15のに、通常のドキュメントが印刷できない場合は、以下の手順を確認してください。

ネットワークLED の表示をチェックします。

ネットワークインターフェースには本製品の背面に 2 個のネットワーク LED があります。この LED を使用して、問題の診断を行うことができます。
上のオレンジ色の Speed LED は、アクセス速度を示します。
下の緑色の Link/Activity LED は、ネットワーク接続（データ送受信）の状態を示します。

- 上の LED がオレンジ色に点灯
  Speed LED がオレンジ色に点灯しているときは、本製品が 100BASE-TX Fast Ethernet ネットワークに接続されています。
- 上の LED が消灯
  Speed LED が消灯しているときは、本製品が 10BASE-T Ethernet ネットワークに接続されています。
- 下の LED が緑色に点灯
  Link/Activity LED が緑色に点灯しているときは、本製品が Ethernet ネットワークに接続されています。
- 下の LED が消灯
  Link/Activity LED が消灯しているときは、本製品がネットワークに接続されていません。

IPアドレスの不一致や重複が原因で問題が発生していないかを確認します。

- 本製品に IP アドレスが正しく設定されていることを確認します。
  ネットワーク設定一覧を印刷して、IP アドレスを調べることができます。「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
- ネットワーク上のノードで、この IP アドレスが別のコンピュータやプリンタに使用されていないことを確認します。
  - Windows®
    本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータの MS-DOS プロンプトまたはコマンドプロンプトから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。
  - Macintosh
    本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータのターミナルから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。

手順1～3までを試しても正常に動作しない場合は、本製品のネットワーク設定をリセットしP.2-16、最初から設定をやり直してください。

5 Windows®でインストールが正しくできなかった場合は、ファイアウォールがプリンタとのネットワークに必要な接続を阻んでいる可能性があります。

この場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしプリンタドライバを再インストールする必要があります。

プリンタドライバを再インストールし、正常に印刷できることを確認したら、ファイアウォールの設定を有効に戻します。

ファイアウォールの解除の方法については、「ファイアウォールの問題」P.6-9 を参照してください。

印刷の問題

● 印刷できない

本製品のステータスと設定を確認してください。以下の手順で確認します。

本製品の電源スイッチがONで、印刷できる状態であることを確認します。

「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 **を印刷し、以下について確認します。**

- IP アドレスがネットワークに対して正しく設定されていることを確認します。
- IP アドレスの不一致や重複が原因で問題が発生していないことを確認します。
- 本製品に IP アドレスが正しく設定されていることを確認します。
- ネットワーク上のノードで、この IP アドレスが使用されていないことを確認します。
  - Windows®
    本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータの MS-DOS プロンプトまたはコマンドプロンプトから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。
  - Macintosh
    本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータのターミナルから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。

ネットワーク設定一覧は印刷できるのに通常のドキュメントが印刷できない場合は、次の手順を実行します。

次の手順を実行しても印刷できない場合は、ハードウェアまたはネットワークに問題があると考えられます。

● TCP/IP を使用している Windows® の場合

① ［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［アクセサリ］－［コマンド プロンプト］の順にクリックします。

② **ping ipaddress** を入力します。

ipaddress は本製品の IP アドレスです。
本製品に IP アドレスが設定されるまでに、IP アドレスの設定後最大 2 分間程度かかる場合があります。

- 応答が正しく返される場合は、「インターネット印刷のトラブルシューティング」P.6-8 の各トラブルシューティングへ進みます。

例） **C:￥>ping 192.168.0.2**

Pinging 192.168.0.2 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.2: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.0.2: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.0.2: bytes=32 time<10ms TTL=255
Reply from 192.168.0.2: bytes=32 time<10ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.0.2:
Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

- 応答が返らない場合は、手順 4 へ進みます。

例） **C:￥>ping 192.168.0.2**

Pinging 192.168.0.2 with 32 bytes of data:

Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 192.168.0.2:
Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),

● **TCP/IP を使用している Macintosh の場合**

①［移動］メニューから［アプリケーション］を選択します。
②「ユーティリティ」をクリックします。
③「ターミナル」をダブルクリックします。
ターミナル画面から次のコマンドを実行し、本製品への ping を確認します。

ping ipaddress

ipaddress は本製品の IP アドレスです。
本製品に IP アドレスが設定されるまでに、IP アドレスの設定後最大 2 分間程度かかる場合があります。

手順 1 ～ 3 までを試しても正常に動作しない場合は、本製品のネットワーク設定をリセットしP.2-16**、最初から設定をやり直してください。**

● 印刷中のエラー

他のユーザーが大量のデータ（例：多量のページまたは高解像度のページ）を印刷している間に印刷を実行すると、本製品は実行中の印刷が終了するまで印刷ジョブを受け付けることができません。
印刷ジョブの待ち時間を超えると、エラーメッセージを返します。このようなときは、他のユーザーのジョブが終了した後に印刷を再度実行してください。

プロトコル固有の問題

TCP/IP のトラブルシューティング

ハードウェアとネットワークに問題がなく、TCP/IP を使用して本製品に正しく印刷できない場合は、以下の手順で確認します。

設定エラーによる原因をなくすため、確認の前に以下の手順を行います。
- 本製品の電源スイッチを OFF → ON します。
- 本製品の設定を削除して作成し直し、新しい印刷キューを作成します。

1 IP アドレスの不一致や重複が原因で問題が発生していないかを確認します。

① 本製品に IP アドレスが正しく設定されているかを確認します。
ネットワーク設定一覧 P.2-15 を印刷し、確認してください。
② ネットワーク上で本製品に設定した IP アドレスが重複して使用されていないことを確認します。
- Windows®
本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータの MS-DOS プロンプトまたはコマンドプロンプトから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。
- Macintosh
本製品の LAN ケーブルをはずして、ネットワーク上のコンピュータのターミナルから ping を実行し、タイムアウトになることを確認します。

2 本製品に設定したIP アドレスが変わっていないかを確認します。

本製品に IP アドレスを指定して使用しようとした場合、間違いなく指定しているにもかかわらず、ping が通らなかったりする場合があります。IP アドレスを指定する場合は、あらかじめ、取得方法を「Static（固定）」に変更してから IP アドレスを指定してください。

3 TCP/IPが本製品で使用する設定になっていることを確認します。

ネットワーク設定一覧 P.2-15 を印刷し、確認してください。

4 RARPを使用した場合は、次の項目を確認します。

- UNIX ホストコンピュータで、rarpd、rarpd -a、または同等のコマンドを使用して rarp デーモンが起動していることを確認します。
- /etc/ethers ファイルに、正しい MAC アドレス（イーサネットアドレス）が記述されていることを確認します。
- ノード名が /etc/hosts ファイル内の名称と一致していることを確認します。

5 BOOTPを使用した場合は、BOOTPが有効になっていることを確認します。

「IP 取得方法」P.2-6 を確認してください。

6 ホストコンピュータと本製品が、どちらも同じサブネット上に存在することを確認します。

サブネットが異なる場合は、両デバイス間でのデータの送受信が行えるようにルータが設定されていることを確認します。

インターネット印刷のトラブルシューティング

Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® でインターネット印刷に問題がある場合は、次の項目を確認します。

印刷データがファイアウォールを通過できない

IPP 印刷にポート 631 を使用すると、印刷データがファイアウォールを通過できない場合があります。ポート番号を変更するか（ポート 80 など）、ポート 631 を使用できるようにファイアウォールの設定を変更します。
ポート 80（標準 HTTP ポート）を使用するプリンタに、IPP を使用して印刷ジョブを送信する場合、Windows® での設定時に、次のデータを入力します。

http://ip_address/ipp

Windows® での［詳細］オプションが使用できない

http://ip_address:631/ipp の URL を使用している場合は、Windows® での［詳細］オプションは使用できません。
［詳細］オプションを使用するには、次の URL を使用してください。

http://ip_address

これはブラザーネットワークプリンタにポート 80 を割り当てる URL です。
Windows® とブラザーネットワークプリンタとの通信にポート 80 が使用できます。

ウェブブラウザのトラブルシューティング

ウェブブラウザを使用してネットワークプリンタに接続できない場合は、ウェブブラウザのプロキシの設定を確認します。

プロキシを使用しないように設定し、必要に応じてネットワークプリンタの IP アドレスを入力します。
ネットワークプリンタの接続時に、毎回コンピュータが ISP やプロキシサーバへの接続を試行しなくなります。

使用しているウェブブラウザが適しているかを確認します。

- Windows® の場合は Microsoft® Internet Explorer® 6.0 以降または Firefox 1.0 以降、Macintosh の場合は Safari 1.3 以降をおすすめします。
- どのウェブブラウザの場合も、JavaScript およびクッキーを有効にして使用してください。
- 上記以外のウェブブラウザを使用する場合は、HTTP1.0 と HTTP1.1 に互換性があるかを確認してください。

ファイアウォールの問題

「インターネット接続ファイアウォール（Windows® ファイアウォール）」を有効にしている場合、以下のような制限が発生します。

- TCP/IP ピアツーピア印刷：　印刷ができない場合があります。
- BRAdmin Light / Professional：　プリンタの検索ができない場合があります。

これらの機能を利用する場合は、以下の手順でファイアウォール設定を変更する必要があります。ただし、変更設定はセキュリティーポリシーによって適切、不適切と判断される場合があります。ご利用の環境に最も適した設定方法を選択してください。

Windows Vista® の場合

インターネット接続ファイアウォールを無効にする

[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[Windows ファイアウォール]の順にクリックします。

2 **[設定の変更]をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

3 **管理者権限のあるユーザの場合は、[続行]をクリックします。**

管理者権限のないユーザの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

4 **[全般]タブで「無効（推奨されません）」を選択します。**

5 **[OK]ボタンをクリックして、すべての画面を閉じます。**

※ ファイアウォール機能を無効にした場合の結果については、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。

メモ

プリンタドライバなどのインストールが完了したら、ファイアウォールの設定を有効に戻してください。

●インターネット接続ファイアウォールを有効にしたまま設定を変える

1 **[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[Windows ファイアウォール]の順にクリックします。**

2 **[設定の変更]をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

3 **管理者権限のあるユーザの場合は、[続行]をクリックします。**

管理者権限のないユーザの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

4 **[例外]タブをクリックします。**

5 **[プログラムの追加]ボタンをクリックします。**

6 **「プログラムの追加」ウィンドウで「BRAdmin Light」を選択します。**

7 **「プログラムの追加」ウィンドウの左下[スコープの変更]ボタンをクリックします。**

8 **「スコープの変更」ウィンドウで「ユーザーのネットワーク(サブネット)のみ」を選択します。**

9 **[OK]ボタンをクリックして、すべての画面を閉じます。**

ローカルネットワークで複数の Windows Vista® をインストールしたコンピュータから本製品を利用する場合、それぞれのコンピュータに対して、同様の設定変更が必要になります。このような場合はWindows Vista®のファイアウォール機能をすべて無効にし、ルータでサポートされているファイアウォール機能を利用することをおすすめします。詳しくは、ネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

※ ファイアウォール機能を無効にした場合の結果については、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。

Windows® XP Service Pack2 以降の場合

●インターネット接続ファイアウォールを無効にする

[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[ネットワークとインターネット接続]－[Windowsファイアウォール]の順にクリックします。

[全般]タブが選択されている画面で、「無効(推奨されません)」を選択します。

メモ

プリンタドライバなどのインストールが完了したら、ファイアウォールの設定を有効に戻してください。

●インターネット接続ファイアウォールを有効にしたまま設定を変える

1 **[スタート]メニューから[コントロールパネル]－[ネットワークとインターネット接続]－[Windowsファイアウォール]の順にクリックします。**

2 **[例外]タブをクリックします。**

3 **[プログラムの追加]ボタンをクリックします。**

4 **「プログラムの追加」ウィンドウで、「BRAdmin Light」を選択します。**

5 **「プログラムの追加」ウィンドウの左下の[スコープの変更]ボタンをクリックします。**

6 **「スコープの変更」ウィンドウで、「ユーザーのネットワーク(サブネット)のみ」を選択します。**

7 **[OK]ボタンをクリックして、すべての画面を閉じます。**

ローカルネットワークで複数の Windows® XP をインストールしたコンピュータから本製品を利用する場合、それぞれのコンピュータに対して、同様の設定変更が必要になります。このような場合は Windows® XP のファイアウォール機能をすべて無効にし、ルータでサポートされているファイアウォール機能を利用することをおすすめします。詳しくは、ネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

※ ファイアウォール機能を無効にした場合の結果については、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。

アンチウイルスソフトの問題

市販のアンチウイルスソフト（ウイルスバスター ™、Norton AntiVirus™ など）でパーソナルファイアウォール機能が提供されている場合も、Windows® XP と同様の影響を受けます。詳しい設定方法についてはソフトウェア提供元へご相談ください。

その他の問題

メモ

最新の情報は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）(http://solutions.brother.co.jp/）を参照してください。

第 7 章

付録

ユーティリティ以外から IP アドレスを設定する

概要

TCP/IP を使用するには、ネットワーク上の機器に固有の IP アドレスを設定する必要があります。
この章では、本製品の IP アドレスの設定方法について説明します。

IP アドレスの設定

メモ

IP アドレスの自動設定機能（APIPA）
APIPA が使用可能で、DHCP などの IP アドレス配布サーバがない環境では、169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で自動的に IP アドレスが割り当てられます。
お買い上げ時は、APIPA は使用可能に設定されています。

お買い上げ時の IP アドレスが、使用しているネットワークでの IP アドレス設定規則に適していない場合は、IP アドレスを変更してください。IP アドレスの変更は、次のいずれかの方法で設定できます。

- DHCP を使用して自動的に設定する P.7-3
- APIPA を使用して自動的に設定する P.7-3
- RARP を使用して IP アドレスを設定する P.7-3
- BOOTP を使用する P.7-4
- 手動で IP アドレスを設定する：
  BRAdmin Light（Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®、および Mac OS X 10.3.9 以降）P.2-17
  BRAdmin Professional 3（Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®）P.7-6
  ウェブブラウザ P.2-23

メモ

DHCP、BOOTP または RARP コンピュータを使用したときに、自動で IP アドレスが割り当てられないよう（静的 IP アドレス）にしたい場合は、「IP シュトク ホウホウ」（IP 取得方法）を「Static」に設定します。本製品の IP アドレスが固定され、DHCP、BOOTP または RARP コンピュータから自動で IP アドレスを取得しなくなります。IP 取得方法を変更する場合は、操作パネル P.2-8、BRAdmin Light P.2-17、BRAdmin Professional 3 P.7-5、ウェブブラウザ P.2-23 を使用してください。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

IP アドレスの設定方法

手動で IP アドレスを設定する：BRAdmin Light / BRAdmin Professional 3

BRAdmin Light は Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®、および Mac OS X 10.3.9 以降、BRAdmin Professional 3 は Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista® で使用できるソフトウェアです。
TCP/IP に対応していて、ネットワークと本製品の設定を管理できます。また、本製品のファームウェアのアップデートにも利用できます（BRAdmin Professional 3 のみ）。

BRAdmin Light および BRAdmin Professional 3 では、本製品との接続に TCP/IP を使用して、IP アドレスを変更できます。本製品のお買い上げ時の IP アドレスが、使用しているネットワークでの IP アドレス設定規則に適していない場合は、IP アドレスを変更してください。
ただし、DHCP、BOOTP、RARP または APIPA 機能を使用している場合は、自動的に IP アドレスが設定されます。お買い上げ時は、APIPA の機能が有効になっています。

詳しくは、「BRAdmin Light で設定する」P.2-17 または「BRAdmin Professional 3 で管理する（Windows® のみ）」P.7-5 を参照してください。

DHCP を使用して自動的に設定する

動的ホスト構成プロトコル（DHCP）は、IP アドレス自動割り当て機能の 1 つです。ネットワーク上に DHCP サーバがある場合は、その DHCP サーバから自動的に本製品の IP アドレスが割り当てられます。

APIPA を使用して自動的に設定する

DHCP サーバが利用できない場合は、本製品の IP アドレス自動設定機能（APIPA）によって IP アドレスとサブネットマスクを自動的に割り当てます。本製品の IP アドレスを 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲、サブネットマスクは 255.255.0.0、ゲートウェイアドレスは 0.0.0.0 に、自動的に設定します。
お買い上げ時は、APIPA は使用可能に設定されています。

RARP を使用して IP アドレスを設定する

UNIX ホストコンピュータで Reverse ARP（RARP）機能を使用し、本製品の IP アドレスを設定することができます。
以下のエントリ例と同じような行を追加入力して、/etc/ethers ファイルを編集してください（ファイルが存在しない場合は、新しいファイルを作成します）。

例）**00:80:77:31:01:07 BRN008077310107**

00:80:77:31:01:07 は本製品の MAC アドレス（イーサネットアドレス）、**BRN008077310107** は本製品のノード名です。

お使いのプリンタの設定に合わせて入力してください。（ノード名は、/etc/hosts ファイル内の名前と同じでなければなりません）。

rarp デーモンが実行されていない場合は、実行します。
使用環境により、コマンドは rarpd、rarpd -a、in.rarpd -a などになります。詳細情報については、man rarpd と入力するか、システムのマニュアルを参照してください。Berkeley UNIX ベース環境で rarp デーモンを確認するには、以下のコマンドを入力してください。

ps -ax | grep -v grep | grep rarpd

AT&T UNIX ベース環境では、以下のコマンドを入力してください。

ps -ef | grep -v grep | grep rarpd

本製品の電源スイッチを ON にすると、rarp デーモンから IP アドレスが割り当てられます。

BOOTP を使用する

BOOTP は、RARP 設定に必要です。
BOOTP を使用して IP アドレスを設定するには､ホストコンピュータに BOOTP がインストールされ、実行されている必要があります。ホスト上の /etc/services ファイルに BOOTP がリアルサービスとして記述されていなければなりません。man bootpd と入力するか、システムのマニュアルを参照してください。
通常、BOOTP は /etc/inetd.conf ファイルを使用して起動されますので、このファイルの bootp エントリの行頭にある # を削除して、この行を有効にしておく必要があります。
一般的な /etc/inetd.conf ファイル内の bootp エントリを以下に示します。

#bootp dgram udp wait /usr/etc/bootpd bootpd -i

メモ

システムによって、このエントリには bootp ではなく bootps が使用されている場合があります。

BOOTP を有効にするには、エディタを使用して行頭の # を削除します。# がない場合は、BOOTP はすでに有効になっています。
次に、設定ファイル（通常は /etc/bootptab）を編集し、ネットワークインターフェースの名前、ネットワークの種類（Ethernet の場合は 1)、MAC アドレス（イーサネットアドレス)、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。ただし、この記述フォーマットは標準化されていないため、システムのマニュアルを参照してください。
一般的な /etc/bootptab エントリの例を、以下に示します。

BRN008077310107 1 00:80:77:31:01:07 192.189.207.3
および
BRN008077310107:ht=ethernet:ha=008077310107:\ip=192.189.207.3:

BOOTP ホストソフトウェアの中には、ダウンロードするファイル名が設定ファイル内に含まれていないと､BOOTP リクエストに応答しないものがあります。そのような場合には、ホスト上に null ファイルを作成し、このファイルの名前とパスを設定ファイル内で指定します。

RARP での設定の場合と同じように、本製品の電源スイッチを ON にすると、BOOTP サーバから IP アドレスが割り当てられます。

BRAdmin Professional 3 をインストールする

BRAdmin Professional 3 は、ネットワークに接続されているブラザー製品の管理をするためのユーティリティです。Windows® システムが稼動するコンピュータから、ネットワーク上のブラザー製品の検索、ステータス表示、ネットワーク設定の変更ができます。

BRAdmin Professional 3をサポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードします。

ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。

画面の指示に従ってインストールします。

メモ

- Windows® XP で、「インターネット接続ファイアウォール（Windows® ファイアウォール）」を有効にしている場合は、BRAdmin Professional 3 の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効に設定してください。（Windows® XP Service Pack 2 以降をお使いのお客様は、BRAdmin Professional 3 のインストール時に、Windows® ファイアウォールの例外として BRAdmin Professional 3 を追加すれば、Windows® ファイアウォール機能を無効にする必要はありません。）
  詳しい設定方法については「Windows® XP Service Pack2 以降の場合」P.6-11 を参照してください。
- アンチウイルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Professional 3 の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

ネットワークの設定をする

TCP/IP を利用して印刷するには、本製品に IP アドレスを割り当てる必要があります。

使用するコンピュータと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。コンピュータと本製品の間にルータが接続されている場合は、さらに「ゲートウェイ」のアドレスも設定する必要があります。

メモ

ゲートウェイの設定
ルータはネットワークとネットワークを中継する装置です。異なるネットワーク間の中継地点で、送信されるデータを正しく目的の場所に届ける働きをしています。このルータが持つ IP アドレスをゲートウェイのアドレスとして設定します。ルータの IP アドレスはネットワーク管理者に問い合わせるか、ルータの取扱説明書を参照してください。

IP アドレスは以下の方法で割り当てます。

- IP アドレス配布サーバを利用している場合
  本製品は各種の IP アドレス自動設定機能に対応しています。DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用している場合は、本製品が起動したときに自動的に IP アドレスが割り当てられます。
- IP アドレス配布サーバを利用していない場合
  DHCP、BOOTP、RARP などの IP アドレス配布サーバを利用していない場合は、APIPA（AutoIP）機能により、本製品が自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ただし、お使いのネットワーク環境の IP アドレス設定規則に適さない場合は、BRAdmin Professional 3 を使用して本製品の IP アドレスを設定してください。

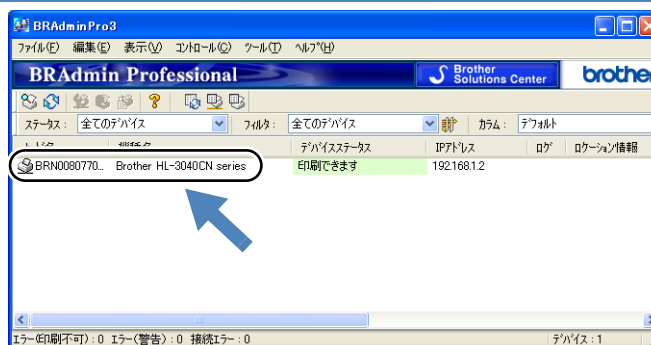
メモ

- **お買い上げ時の IP アドレス**
  IP アドレス配布サーバを利用していない場合、お買い上げ時の設定は以下の通りです。
  ・IP アドレス：169.254.xxx.xxx（APIPA 機能による自動割当）
  現在の設定値を調べるときは、「ネットワーク設定一覧」を印刷します。詳しくは、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。
- **ノード名**
  ネットワーク設定一覧P.2-15 にはノード名が印刷されます。
  お買い上げ時のノード名は、「BRNxxxxxxxxxxxx」です。
  （「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

1 本製品とコンピュータをネットワークに接続した状態で、BRAdmin Professional 3 を起動します。

［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother Administrator Utilities］－［Brother BRAdmin Professional 3］－［BRAdmin Professional 3］の順にクリックします。

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

2 本製品を選択します。

3 [コントロール]メニューから[デバイスの設定]をクリックします。

4 「パスワード」を入力します。

メモ

お買い上げ時のパスワードは“access”に設定されています。

5 本製品の設定が変更できます。

メモ

- DHCP/BOOTP/RARP サーバを使用せずに、お買い上げ時の設定のまま本製品を使用している場合は、APIPA 機能によって IP アドレスが自動的に割り当てられ、BRAdmin Professional 3 に表示されます。
- 「ネットワーク設定一覧」を印刷し、現在設定されているノード名や MAC アドレス（イーサネットアドレス）を調べることができます。「ネットワーク設定一覧」の印刷方法は、「ネットワーク設定一覧を印刷する」P.2-15 を参照してください。

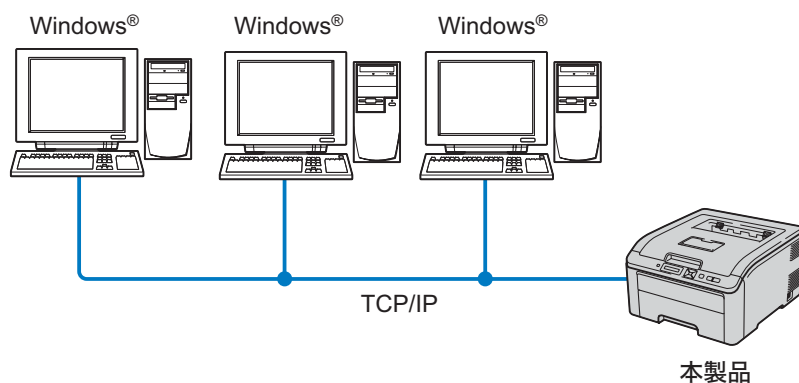
オートマチックドライバインストーラを使う（Windows® のみ）

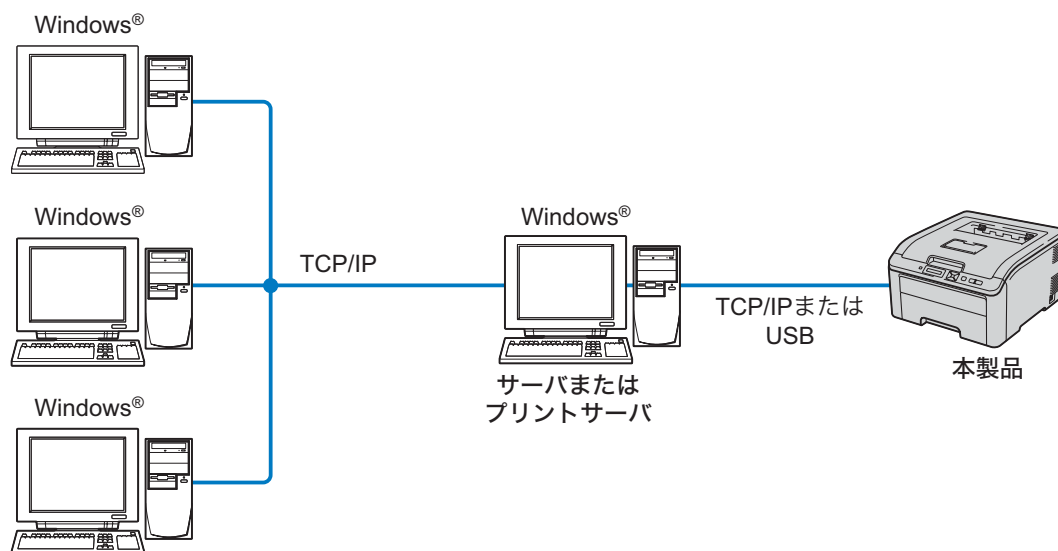
プリンタドライバをご使用の設定に合わせて作成するツールです。ネットワーク接続で使用するオリジナルドライバを作成でき、ユーザに配布することができます。配布インストーラは、オペレーティングシステム（OS）ごとの作成が必要です。
プリンタドライバとソフトウェア（ピアツーピア接続の場合）を同時にインストールできるため、わずらわしい設定作業をすることなくプリンタドライバの設定が可能になり、インストール作業の時間と手間を省けます。
このソフトウェアは Windows® 専用です。

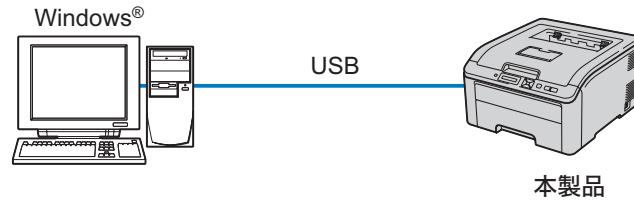
オートマチックドライバインストーラが対応するプリンタの接続方法

オートマチックドライバインストーラが対応するプリンタの接続方法は、次の 3 種類です。

ピアツーピア接続

ピアツーピア接続では、各コンピュータが本製品（ネットワークプリンタ）と直接データを送受信します。ファイルの送受信を操作するサーバやプリントサーバなどは必要ありません。

ネットワーク共有

ネットワーク共有では、各コンピュータは「サーバ」または「プリントサーバ」と呼ばれる中心で制御されたコンピュータを経由して本製品（ネットワークプリンタ）とデータを送信します。すべての印刷ジョブを制御できます。

ローカルプリンタ（USB）

プリンタとコンピュータを USB ケーブルを使用して接続します。

オートマチックドライバインストーラをインストールする

はじめに
ネットワーク設定
ネットワーク印刷
インターネット印刷
セキュリティ
困ったときは
付録

1 コンピュータの電源スイッチをONにします。

管理者権限をもつユーザでログオンします。

2 本製品に付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットします。

オープニング画面が表示されます。

3 [その他のインストール]をクリックします。

4 [オートマチックドライバインストーラ]をクリックします。

メモ

Windows Vista® の場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、[続行] をクリックします。

5 オートマチックドライバインストーラのセットアップ画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

6 使用許諾契約の内容よくお読みになり、画面の指示に従ってください。

7 [完了]をクリックします。

これでインストールは完了しました。

オートマチックドライバインストーラを使用する

「オートマチックドライバインストーラ」を起動すると、「オートマチックドライバインストーラへようこそ」の画面が表示されます。[次へ]をクリックします。

「プリンタ」を選択し、[次へ]をクリックします。

プリンタの接続方法を選択し、[次へ]をクリックします。

必要な項目を選択し、画面上の指示に従います。

手順 3 で「ブラザーピアツーピアネットワークプリンタ」を選択した場合は、右の画面が表示されます。

- IP アドレスの設定
  本製品に IP アドレスがない場合は、リストから本製品を選択し、[IP の設定] をクリックし、IP アドレスを変更できます。
  表示された「IP アドレス設定」画面で IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなどの情報を設定することができます。

プリンタのリストから本製品を選択し、[次へ]をクリックします。

使用したいプリンタドライバがコンピュータにインストールされていない場合は、[ディスク使用] をクリックし、プリンタドライバのファイルの場所を指定します。

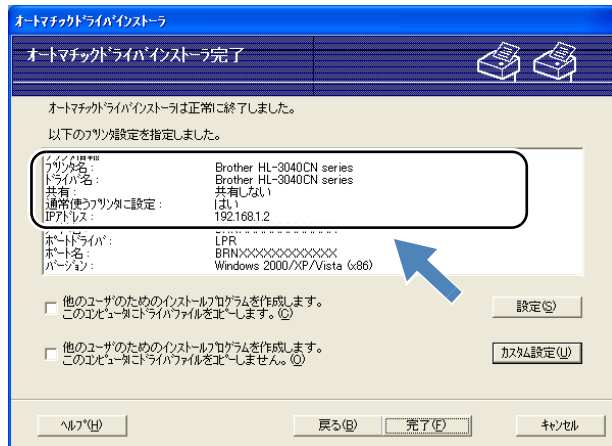
X:install￥jpn￥PCL￥win2kxpvista
（64 ビット OS は winxpx64vista64）
（X は CD-ROM ドライブ）

プリンタ設定詳細画面が表示されたら､ドライバの設定内容を確認してください。

● 実行ファイルの作成

オートマチックドライバインストーラを使って､自動実行 .EXE ファイルを作成することもできます。自動実行 .EXE ファイルは、ネットワークに保存したり、CD-ROM や USB メモリにコピーしたり、他のユーザーに E メールで送信することもできます。
実行後は、ドライバとその設定が自動的にインストールされます。

- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーします。」
  ご使用のコンピュータにドライバをインストールし､ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム（OS）の他のコンピュータで実行する自動実行 .EXE ファイルを作成する場合に選択します。
- 「他のユーザのためのインストールプログラムを作成します。このコンピュータにドライバファイルをコピーしません。」
  ご使用のコンピュータにドライバが既にインストールされているため、ドライバを再度インストールせず、ご使用のコンピュータと同じオペレーティングシステム（OS）の他のコンピュータで実行する自動実行 .EXE ファイルのみを作成する場合に選択します。

メモ

- 「キュー」に基づくネットワークで作業しており、実行ファイルに設定するものと同じプリンタキューにアクセスできない他のユーザーのための実行ファイルを作成する場合は、ドライバを遠隔コンピュータにインストールしたときに、LPT1 印刷に初期設定されます。
- 手順 5 で「インストールされているドライバを使用する」にチェックを入れた場合は、［カスタム設定］をクリックして、用紙サイズなどプリンタドライバの初期設定を変更することができます。

[完了]をクリックします。

ご使用のコンピュータにプリンタドライバがインストールされます。

その他のプリンタドライバのインストール方法

Web Servicesを使用する(Windows Vista®のみ)

Windows Vista® の場合は、Web Services を利用してプリンタドライバをインストールすることができます。

"ホストコンピュータと本製品が同じサブネット上にあるか"、または"ルータが 2 つのデバイス間で正しくデータのやり取りができるように設定されているか"のどちらかを確認してください。

1 **[スタート]メニューから[ネットワーク]をクリックします。**

2 **本製品のWeb Services名がアイコンと合わせて表示されますので、右クリックして[インストール]をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

本製品の Web Services 名は、モデル名と MAC アドレス(イーサネットアドレス)です。
例)Brother HL-XXXX series [XXXXXXXXXXXX]

3 **管理者権限のあるユーザーの場合は、[続行]をクリックします。**

管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

4 **「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)」を選択します。**

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。

5 **管理者権限のあるユーザーの場合は、[続行]をクリックします。**

管理者権限のないユーザーの場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

6 **「オンラインで検索しません」を選択します。**

7 **本製品に付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットします。**

8 **「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)」を選択します。**

9 **CD-ROMドライブを選択し、本製品のプリンタドライバの保存フォルダを選択し、[OK]をクリックします。**

X:install¥jpn¥PCL¥win2kxpvista(64 ビット OS は winxpx64vista64)
(X は CD-ROM ドライブ)

10 **[次へ]をクリックします。**

インストールが開始されます。

ネットワークプリンタキューと共有を使用する

メモ

- ネットワークに共有プリンタとして接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、キューと共有名を確認してください。
- 実行中のすべてのアプリケーションソフトを終了しておいてください。

コンピュータの電源スイッチをONにします。

管理者権限をもつユーザでログオンします。

本製品に付属のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブにセットします。

オープニング画面が表示されます。

[プリンタドライバのインストール]をクリックします。

[ネットワーク(有線)の場合]をクリックします。

メモ

Windows Vista® の場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、[許可]をクリックします。

5 **プリンタドライバのインストールが開始され、使用許諾契約画面が表示されます。使用許諾契約の内容をよくお読みになり、[はい]をクリックします。**

6 **「ネットワーク共有プリンタ」を選択し、[次へ]をクリックします。**

本製品のキューを選択し、[OK]をクリックします。

メモ

本製品のネットワーク上の位置や名前が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

8 **[完了]をクリックします。**

メモ

- セットアップが完了後、すぐにユーザー登録をする場合は、[オンラインユーザ登録]をチェックしてください。
- 本製品を通常使うプリンタに設定しない場合は、[通常使うプリンタに設定]のチェックをはずしてください。
- ステータスモニタを使用しない場合は、[ステータスモニタを有効にする]のチェックをはずしてください。

OK! **以上でプリンタドライバのインストールは完了です。**

仕様

プリントサーバ

項目	内容	
ネットワークノードタイプ	NC-6700h	
対応オペレーティングシステム（OS）	Windows® 2000/XP/XP Professional x64 Edition、Windows Vista®、Windows Server ®2003/2008、Windows Server® 2003 x64 Edition Mac OS X 10.3.9 以降※1	
プロトコル	IPv4	ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA (Auto IP), WINS/NetBIOS name resolution, DNS resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, IPPS, FTP Server, SSL/TLS, POP before SMTP, SMTP-AUTH, APOP, TELNET server, SNMPv1, SNMPv2c, SNMPv3, HTTP/HTTPS server, TFTP client and server, SMTP client, ICMP, WebServicesPrint, LLTD responder
	IPv6 ※2	(Turned off as default) NDP, RA, DNS resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, IPP, IPPS, FTP server, SSL/TLS, POP before SMTP, SMTP-AUTH, APOP, TELNET server, SNMPv1, SNMPv2c, SNMPv3, HTTP/HTTPS server, TFTP client and server, SMTP client, ICMPv6, WebServicesPrint, LLTD responder
ネットワークタイプ	10/100BASE-TX イーサネットネットワーク	
管理ユーティリティ	BRAdmin Light ※3 BRAdmin Professional 3 ※4 BRPrint Auditor ソフトウェア※4、※5 ウェブブラウザ	

※1 最新ドライバの更新については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）を参照してください。

※2 IPv6 プロトコルの詳細は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）を参照してください。

※3 高度なプリンタ管理が必要な場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）から最新の BRAdmin Professional 3 をダウンロードして使用してください。

※4 BRAdmin Professional 3 および BRPrint Auditor ソフトウェアは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（**http://solutions.brother.co.jp/**）からダウンロードできます。Windows® でのみ使用できます。

※5 USB を経由してクライアントコンピュータに接続しているプリンタで、BRAdmin Professional 3 を使用したときに利用できます。

お買い上げ時のネットワーク設定

お買い上げ時の設定は、* 付き太字で示しています。

メインメニュー	サブメニュー	メニュー選択	選択項目
ﾈｯﾄﾜｰｸ	TCP/IP ｾｯﾃｲ	IP ｼｭﾄｸ ﾎｳﾎｳ	**ｼﾞﾄﾞｳ***, Static, RARP, BOOTP, DHCP
		IP ｱﾄﾞﾚｽ	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255] (**000.000.000.000***)
		ｻﾌﾞﾈｯﾄ ﾏｽｸ	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255] (**000.000.000.000***)
		ｹﾞｰﾄｳｪｲ	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255] (**000.000.000.000***)
		IP ｾｯﾃｲﾘﾄﾗｲ	0 〜 32767 (**3***)
		APIPA	**On***, Off
		IPv6	On, **Off***
	ｲｰｻﾈｯﾄ	ー	**ｼﾞﾄﾞｳ***, 100B-FD, 100B-HD, 10B-FD, 10B-HD
	LAN ｾｯﾃｲ ﾘｾｯﾄ	ー	ﾌﾟﾘﾝﾀ ﾘｽﾀｰﾄ？

Open SSL について

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1) Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4) The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5) Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6) Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1) Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2) Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3) All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4) If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Part of the software embedded in this product is gSOAP software.

THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANYWAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes SNMP software from WestHawk Ltd.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notices appear in all copies and that both the copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. This software is provided "as is" without express or implied warranty.

用語集と索引

用語集

ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line の略。銅線の一般加入者電話 (アナログ) 回線を利用して、数 M ～数＋ Mbps の高速データ通信を可能にする通信方式です。

APIPA

Automatic Private IP Addressing の略。IP アドレスの自動的な割り当て管理機能です。最初に自身のシステムに割り当てる IP アドレスを「169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 」の範囲からランダムに 1 つ選択します。そして、ARP 要求をネットワークにブロードキャストすることによって、その IP アドレスが他のシステムで利用されていないかどうかを確認します。もし他のシステムから ARP の応答が返ってくれれば、その IP アドレスは使用中であるとみなし、別の IP アドレスで再試行します。このようにして未使用の IP アドレスを見つけ、自身のシステムに割り当てることによって、IP アドレスが重複しないことを保障します。

ARP

Address Resolution Protocol の略。IP アドレスから MAC アドレス（イーサネットアドレス）を求めるためのプロトコルです。

BOOTP

BOOTstrap Protocol の略。ハードディスクを搭載しないディスクレスクライアントシステムが、ネットワークアクセスを行うための IP アドレスやサーバアドレス、起動用プログラムのロード先などを見つけだし、システムを起動できるようにすることを目的として開発された UDP/IP 上のプロトコルです。BOOTP を利用すれば、ネットワーククライアントの IP アドレスやノード名、ドメイン名、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレス、DNS サーバアドレスなどの情報を、クライアントの起動時に動的に割り当てられるようになります。TCP/IP ネットワークでは、各クライアントごとにこれらのネットワーク情報を設定する必要がありますが、BOOTP を利用すれば、クライアントの管理をサーバ側で集中的に行えるようになります。その後一部を改良された DHCP が開発され、広く利用されるようになっています。

DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol の略。DHCP は、IP アドレスやサーバアドレスなどの設定ファイルを起動時に読み込めるように開発された BOOTP （BOOTstrap Protocol ）をベースとする上位互換規格です。
BOOTP は、クライアントの IP アドレスやノード名などはあらかじめ決定しておく必要がありましたが、DHCP では、クライアントがネットワークに参加するためのすべてのパラメータ（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、ドメイン名など）を動的に割り当てられるようになっています。サービスを実行するにはサーバもしくは、その機能を有するルータが必要です。

DNS クライアント

本製品は、DNS（ドメインネームシステム）クライアント機能をサポートします。この機能により本製品は、サーバ自体の DNS 名で他のデバイスと通信できます。

DNS サーバ

Domain Name System という体系で命名されたホスト名 (ドメイン名) から IP アドレスを調べるためのサービスです。ネットワーク上の資源を管理・検索するためのシステムです。インターネットの IP アドレスの名前の解決に広く利用されています。

FTTH
Fiber To The Home の略。電話局から各家庭までの加入者線を結ぶアクセス網を光ファイバ化し、高速な通信環境を構築する計画のことを指します。

IPP
インターネット印刷プロトコル（IPP バージョン 1.0）を使用すると、インターネットを経由してアクセスできるプリンタへ文書を直接送信し、印刷できます。

ISDN
Integrated Services Digital Network の略。「総合デジタル通信網」と呼ばれるサービス体系の総称です。

LAN
Local Area Network の略。同一フロア、同一のビル内などにあるコンピュータ同士を、Ethernet などの方法で接続したネットワークのことを指し、閉鎖されたネットワークという位置付けがあります。

LLMNR
Link-Local Multicast Name Resolution の略。リンクローカルマルチキャスト名前解決（LLMNR）プロトコルは、ネットワークに DNS（ドメインネームシステム）がないときに近隣のコンピュータの名前を解決します。LLMNR レスポンダ機能は、Windows Vista® などの LLMNR センダ機能を有するコンピュータを使用する場合に IPv4、IPv6 両方の環境で有効です。

LLTD
Link Layer Topology Discovery の略。リンク層トポロジー探索（LLTD）プロトコルを用いると、Windows Vista® ネットワーク上で本製品を簡単に検出でき、分かりやすいアイコンとノード名で表示されます。このプロトコルの初期設定はオフです。

LPR/LPD
TCP/IP ネットワーク上で通常用いられる印刷プロトコルです。

MAC アドレス（イーサネットアドレス）
OSI 参照モデルのデータリンク層で定義されるインターフェースカードのアドレス。Media Access Control の略。機器内部に記憶されているので、ユーザが変更することはできません。

mDNS（multicast DNS）
DNS サーバが存在しないような小規模なローカルエリアネットワーク環境においても、クライアントコンピュータがネットワーク上に存在する機器を名前で検索して利用できるようにする機能です。Apple Mac OS X の簡易ネットワーク設定機能などで使われています。

NetBIOS name resolution
ネットワークの基本的な入出力システムの名前解決です。ネットワーク接続間の通信に NetBIOS 名を使用し、他の機器の IP アドレスを取得することができます。

ping
Packet InterNetwork Groper の略。相手先ホストへの到達可能性を調べるコマンドです。

RARP
Reverse Address Resolution Protocol の略。TCP/IP ネットワークにおいて、MAC アドレス（イーサネットアドレス）から IP アドレスを求めるのに使われるプロトコルです。

SMTP クライアント
簡易メール転送プロトコル（SMTP）クライアントは、インターネットまたはイントラネットを経由して E メールを送信するために用いられます。

SNMP
Simple Network Management Protocol の略。簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）は、TCP/IP ネットワーク内のコンピュータ、プリンタ、端末を含めたネットワークデバイスの管理に用いられます。

TCP/IP
Transmission Control Protocol / Internet Protocol の略。インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト (アプリケーション) を特定して通信路を確立するプロトコル (TCP) と、通信経路 (IP) から構成されています。OSI 参照モデルでは TCP はレイヤー 4 、IP はレイヤー 3 に対応しています。
ファイルやプリンタの共有も行うことができます。ネットワーク内では、コンピュータなどの機器の特定に IP アドレスが使用されています。

WINS
Windows® Internet Name Service の略。Windows® 環境で、ネームサーバを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバが必要です。

WWW
World Wide Web の略。インターネットでの情報検索システム、サービスシステムのひとつです。

Web Services
Windows Vista® の場合は、Web Services プロトコルを使用してプリンタドライバをインストールできます。詳細は、「Web Services を使用する（Windows Vista® のみ）」P.7-12 を参照してください。
また、Web Services では、ご使用のコンピュータから本製品の現在のステータスを確認することができます。

カテゴリ
LAN ケーブルの品質を指します。カテゴリ 5 は 100BASE-TX で利用されています。将来ギガビット・イーサネット (1000BASE-T) によるネットワークを想定する場合は、カテゴリ 6 を選択することが推奨されています。カテゴリ 5 で保証される周波数帯域は 100MHz までですが、カテゴリ 6 では 250MHz まで保証されています。また、LAN ケーブルは UTP ケーブルと呼ばれる場合もあり、UTP は Unshielded Twisted Pair の略でより線のことを指しています。シールド付きのものは、STP ケーブルと呼ばれます。

Custom Raw Port / Port9100
LPR/LPD と同様に TCP/IP ネットワーク上で通常用いられる印刷プロトコルです。

ゲートウェイアドレス

ネットワークとネットワークを接続する際の、外部のネットワークとの接点となるホストの IP アドレスを指します。別名「デフォルトルータ」や、単に「ルータ」と呼ばれる場合もあります。ルータは、同一ネットワーク内に存在するホストである面と、他のネットワークにも同時に所属している両面を持っています。

サブネットマスク

ネットワークを複数の物理ネットワークに分割するのに使用します。サブネットマスクはクラスごとに固定されています。

クラス A	255.000.000.000
クラス B	255.255.000.000
クラス C	255.255.255.000

ルータの取扱説明書によっては、192.168.1.1 / 255.255.255.0 のことを、192.168.1.1/24 と表記している場合があります。255.255.255.0 を 2 進数に換算すると、先頭から 1 が 24 個並びます。"/24" とは、この事を指します。24bit 以外のマスク値を設定することも可能ですが、IP 管理が複雑になりますので、マスク値は 24bit でご利用することをおすすめします。なお、ローカルネットワークで利用する IP アドレスのことをプライベート IP アドレスと呼び、こちらもクラスが分かれています。

クラス A	010.000.000.000 ～ 010.255.255.255
クラス B	172.016.000.000 ～ 172.031.255.255
クラス C	192.168.000.000 ～ 192.168.255.255

LAN ケーブル

本製品とコンピュータ、またはハブなどの機器同士をつなぐケーブルです。LAN ケーブルにはいろいろな規格がありますが、現在一般的なのはカテゴリ 5E という規格のケーブルです。5E の E は「Enhanced」の略で、「強化された」という意味を持っています。カテゴリ 5E のケーブルはカテゴリ 5 のケーブルよりもノイズに強い作りになっています。
また、同じカテゴリのケーブルにも「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の 2 種類があります。ストレートケーブルは ADSL モデムとコンピュータの接続や、コンピュータとハブの接続に使用されるケーブルで、ほとんどの場合はストレートケーブルで接続が可能です。クロスケーブルは 2 台のコンピュータ同士を直接接続するときなどに使用されます。

ノード

node 。ネットワークに接続されているコンピュータなどの機器を指します。「ノード名」と「ホスト名」は同じ意味です。

ハブ（スイッチング・ハブ）

複数台のコンピュータなどをネットワーク接続するときに必要な集線装置です。ハブには、大きく分けて「リピータハブ」と「スイッチングハブ」があります。リピータハブは主に 10BASE-T で使用される集線装置です。スイッチングハブは主に、100BASE-TX や 1000BASE-T に使用される集線装置で、信号の流れを制御してコリジョンという信号の衝突が起きないようにする機能を持っています。

プロトコル

コンピュータ間の通信のルールです。
ネットワークにはさまざまなコンピュータが接続されているため、それらの通信形式が違うとお互いの情報交換ができません。そこで作られたのが通信のプロトコルです。通信の開始から終了までの手順やデータサイズ、送受信方法などが細かく決められています。

ルータ

ADSL や CATV、光ファイバー（FTTH）などのインターネット網と、家庭・オフィスの LAN（内部ネットワーク）を中継する機器です。複数台のコンピュータから同時にインターネットに接続することができるようになります。ルータを使用すると、接続した各機器に自動で IP アドレスを割り当てる DHCP 機能や、LAN 内の独自の IP アドレス（プライベート IP アドレス）を持つ機器に、必要に応じてインターネット用の IP アドレス（グローバル IP アドレス）を割り当てる NAT 機能があります。
さらにインターネット接続に必要なプロトコルに対応していたり、インターネットからの不正なアクセスを防ぐセキュリティ機能なども持っています。

索引

ほ

ゆ

ら

り

ろ